

男のしなやかな足。
テイステイ・ランナー

EXCEL

● エキセル ●

新発売



男のしなやかな足。 テイスティランナー

EXCEL

エクセル

●標準現金価格：13万5千円(北海道、沖縄は3千円高)

新発売

都会的でシックなスタイル。
交通の流れに乗ってゆったりと走る、余裕の5.8馬力。
——車格、性能、機能、品質、仕上げ、すべての面で
ひとクラス上のスクーター『エクセル』の新登場です。
平忠彦選手をキャラクターとして話題性も豊かに展開する
広告キャンペーンと連動して、
どうぞ幅広いお客さまにおすすめてください。



ジャスト・サイズのボディ、ハンドルカバーとヘッドライトを一体化したフラッシュサーフェース・デザイン、そしてフロントからリヤへ躍動感あふれるサイドライン——乗る人を知的に見せる、シックな『エクセル』。

ベーシックなアップルレッド、精悍なグリニッシュブラック、高質感のウェットベールブラウン、若々しいシルキーホワイト、ホワイトホイールとの組み合わせも新鮮な『エクセル』のカラーは4タイプ。ヤングからアダルトまで、乗る人のセンスのよさを感じさせます。

1130ミリのロングホイールベース、ゆったり広びろのフットスペース、そして自由度の大きな大型シート、『エクセル』はどんな体格の方にもゆったりな乗車感です。

Eンジン、定評のスプリンターJOG、チャンプ系をさらにパワーアップして、5.8PS/7000rpmの最高出力と0.61kg-m/6000rpmの最大トルクを発揮。Vベルト式無段変速との組みあわせて、その快速ぶりはまさにテイスティ・ランナー。トルクフルな走りに加えてタフな登坂力も自慢です。

なめらか作動で小さなショックも吸収するトレーリングアクスル式のボトムリンク・フロントフォーク、エンジン振動の車体への伝達をカットするボールベアリングとラバー採用の防振リンク式エンジン懸架で乗り心地もソフト。ロングツーリングも快適です。

25ワットのヘッドランプ、視認性の高い大型フラッシャーと大型リヤコンビネーションランプでナイトライディングの安全性も向上。見やすいメーターパネルには、キーを抜いても残量確認ができる電気式フュエルメーターも装備。

スマートで安心なキー付フロントトランク、実用性の高いリヤのブラック・キャリアも標準装備。

4.5ℓ大容量フュエルタンク、負圧式コックとオートチョーク、ブレーキレバーを握らなければ始動しない安全装置、便利な左右のハンドルスタンディング、そして左右標準装備の角型バックミラーなどなど、すみずみまで行き届いた親切設計です。





フレッシュなシルキーホワイト

ベーシックなアップルレッド



ハイセンスな
ウェットパールブラウン



精悍なグリニッシュブラック



■エクセル(CK50E)仕様諸元

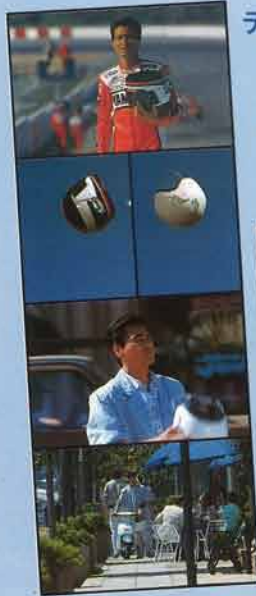
●全長1610mm ●全幅620mm ●全高970mm ●シート高690mm ●軸間距離1130mm ●最低地上高90mm ●乾燥重量59kg ●舗装平坦路燃費76km/ℓ(30km/h) ●登坂能力20° ●最小回転半径1.6m ●制動停止距離3.5m(20km/h)
●エンジン2サイクル、ピストンリードバルブ・単気筒・49cc ●内径×行程40×39.2mm ●圧縮比6.7対1 ●最高出力5.8PS/7000rpm ●最大トルク0.61kg-m/6000rpm ●始動方式セル・キック併用 ●オイルタンク容量0.8ℓ ●燃料タンク容量4.5ℓ ●キャブレターY14P ●点火方式CDI ●点火プラグBP5HA・BP6HS、BP7HS、W16FP、W20FP、W22FP(出荷時装着はBP6HS) ●バッテリー容量12V4Ah ●バッテリー型式GM4-3B
●1次減速(比)ギヤ(3.500) ●2次減速(比)ギヤ(3.454) ●クラッチ乾式内拡重錘式 ●変速機Vベルト式無段変速 ●変速比2.520-0.900 ●フレーム鋼管アンダーボーン ●キャスト27 ●トレール65mm ●タイヤ2.75-10-2PR(前後とも) ●ブレーキ機械式ドラム ●懸架方式(前)ボトムリンク(後)ユニットスイング ●緩衝装置(前)コイルスプリング(後)オイルダンパー+コイルスプリング ●ホイールトラベル(前)55mm(後)56mm
●ヘッドランプ12V25W/25W ●テールランプ12V5W ●ストップランプ12V18W ●フラッシュャーランプ12V10W



エクセル広告キャンペーン

都会はスクーター・カントリー

キャラクターに人気・実力No.1ライダー平沼彦選手を起用し、「都会はスクーター・カントリー」をキャッチフレーズに展開する「エクセル」広告キャンペーン。シックな「エクセル」とクールな平選手の新鮮な組み合わせが、この夏オトコたちの眼をオトナのスクーター「エクセル」に集中、知名度を一気に高めます。



テレビCF

新発売時のテレビCFは「レース場編」。『自分は、ただの男です』平選手の印象的なナレーションが、またまた話題を呼びおこします。



交通広告

(B倍判、東京・大阪主要駅)



※このB全判が店頭ポスターとなります。

雑誌広告 (月刊プレイボーイ、ブルーアース他) 店頭ポスター (B全判、B2判2種)



カタログ



新聞広告

6月8日、29日(いずれも日曜)朝日、毎日、読売3紙の全国版、スポーツ頁対抗欄に、全10段広告を掲載。エクセル新発売とテレホンカード・コンテストを告知します。

エクセルと平選手が、この夏スクーター市場の話題をさらいます。

エクセル新発売キャンペーン・ツール

- エクセル新発売のほり(横幕兼用)



- エクセルDM、封筒

- エクセル・シーリングPOP



- エクセル・カットアウト



- ウインドステッカー
エクセル



- エクセル・アイキャッチャー

ヤマハフレッシュアップフェア

エクセル・テレホンカード・コンテスト開催

この夏のヤマハスクーター拡張キャンペーン「ヤマハ・フレッシュアップフェア」の一環として、「エクセル」新発売特別企画・オープン懸賞「エクセル・テレホンカード・コンテスト」も実施します。(6月1日〜7月21日)お店の「エクセル新発売セール」の話題づくりに、ぜひご活用ください。

- エクセル・テレホンカード・コンテストポスター

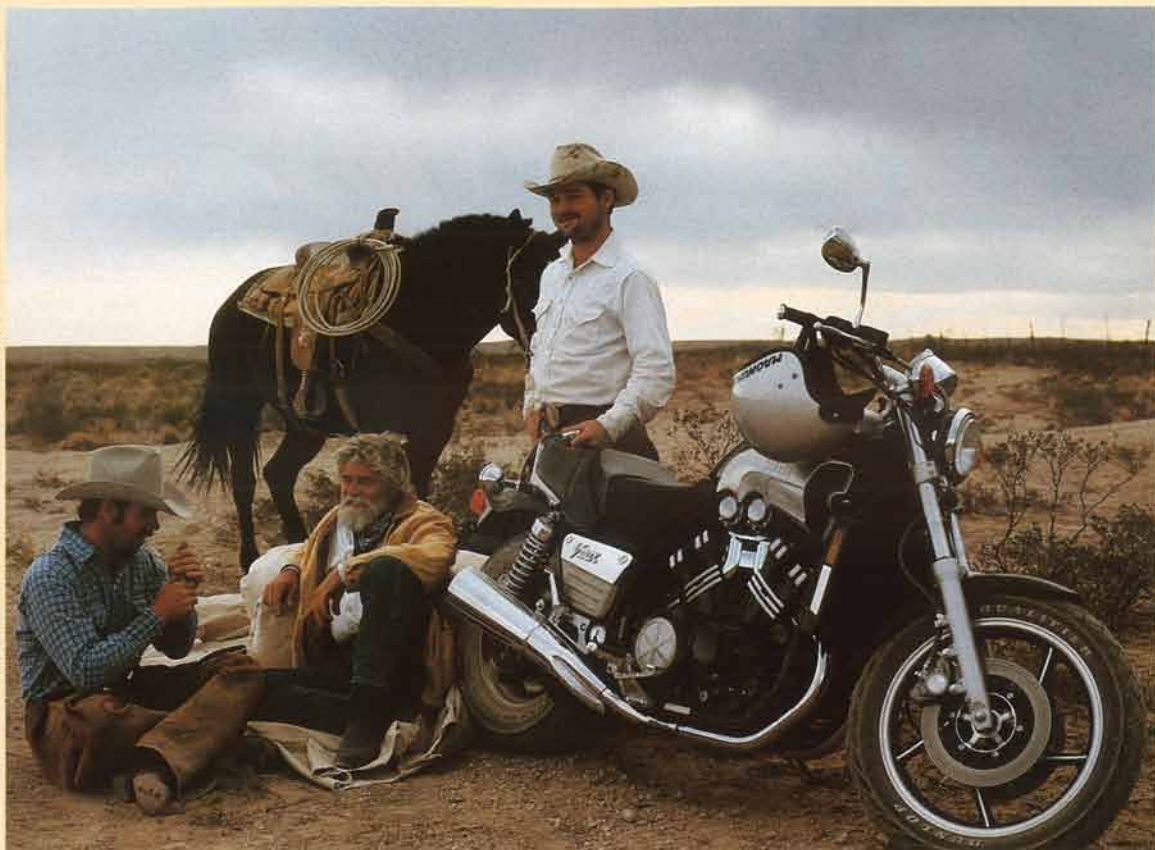


※キャンペーン・ツールおよびテレホンカードコンテストの詳細は、担当セールスマンにお問合わせください。

当店にて「フレッシュアップ」実施中!

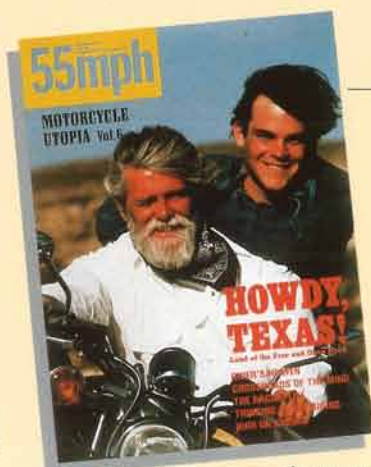
- 応募用紙





ことしもスタート ヤマハ・スポーツバイク・ 55mphキャンペーン

「人間にいちばん近い乗りものなんだ」もうすっかりおなじみとなった、このスローガンのもとに、モーターサイクルに乗る楽しさ、夢、人間とモーターサイクルの素晴らしい関わりあいをユーザーに発信しつづけて6年、ヤマハのブランドイメージアップとファンの増大に大きな役割を果たしている「55mphキャンペーン」が、ことしもスタートします。



●『55mph』第6号は、 テクニクス特集

キャンペーンの中心となるのは、おなじみのスペシャルブック『55mph』です。

前作第5号・スペイン特集は、日本産業広告協会が主催した'86日本産業広告総合展において、PR誌の部・総合賞・金賞に輝くなどその美しいビジュアルで定評の『55mph』。今年第6号は、アメリカ・テクニクスでのロケーション取材を巻頭に特集、加えてカリフォルニアの人びとのさまざまなバイクライフの現地取材、さらに国内ではツーリストのメッカ阿蘇を中心とした九州ツーリング紀行、いま人気のスポーツプロダクションレース取材、柏秀樹氏のライディング論やモーターサイクル・エッセイなど、さまざまな角度からスポーツバイクの魅力をとりにあげています。

●『55mph』を核に、 さらに幅広く展開

また、この『55mph』ブックおよびビデオを中心媒体として展開するこのキャンペーンも、例年にもまして幅広い展開が予定されています。

一般男性誌、二輪専門誌そしてみなさまの店頭を通じての広告展開に加えて、『55mph』ブック第6号の発売を記念して、『ヤマハ55mph展』が、6月13日(金)から18日(水)までの6日間、東京・池袋の西武百貨店池袋店(9階、4階特設会場)で開かれます。この展示会は、これ

まで6号の『55mph』の巻頭を飾ったアメリカ、ヨーロッパ、オーストラリアの写真展示の他、『55mph』ビデオ放映、今回ロケに使用したV-MAXなどヤマハスポーツバイクの展示、『55mph』の即売やポスター、オリジナルグッズの販売も行なわれます。

また、こうした一連の広告、イベントとあわせてことしもお客さまのために『55mphカレンダー』、『55mphタイアラー』を發行。また販売店のみなさまにご利用いただくTシ

快調、ヤマハパワー!

序盤戦を終えた内外のモータースポーツ、好調のヤマハパワーが、多くのシリーズ戦でしっかりとリーダーシップを握っています。《詳細は28ページをご参照ください》

世界選手権ロードレース・250ccクラス

**YZR250+ロ・ラバード、世界GPでも
ウイニング・デビュー!**



全日本ロードレース・国際A級250ccクラス



**YZR250の長谷川雄次、片山信二
が新記録をマークし、ツート勝!**

全日本ロードレース・国際A級F1クラス

快調、ジェネシスパワー

YZF750+上野真一が首位快走!



250cc世界選手権モトクロス

YZ250改+J・ビモンド、3GP連続制覇で独走独歩

全日本モトクロス・国際A級250ccクラス

**光安鉄美、YZM250で3連破
ランキングも首位に!**



JAF全日本F2選手権

ヤマハOX66.V3/ 松本恵二2勝、第3戦は1-3位独占



55mphキャンペーン ツールおよび媒体

- 55mph Vol.6 (BOOK)
- 55mphビデオ (VHS、β)
- 55mphオリジナルグッズ (ステッカー、バッジ、Tシャツ)
- B全判イメーシポスター
- B3判告知ポスター
- 一般誌広告 (月刊プレイボーイ、ブルークス)
- 専門誌告知広告 (オートバイ、モーターサイクリスト、ライダーズクラブ、その他専門誌でも下帯広告)
- イベント「55mph展」
- 55mphカレンダー (11月発)
- 55mphダイアリー (売予定)
- ヤマハ提供テレビ番組「オン・アンド・オフ」で紹介

ヤツ、ステッカー、バッジ等『55 mph オリジナルグッズ』も用意しています。スポーツバイク商戦もいよいよ最高潮に達するこの時期、お店でもこの『55 mph』キャンペーンを夏のスポーツバイクセールにご活用ください。また同時に、YESS活動などと連動した、お店独自の『55 mph』セールの企画されてみてはいかがでしょうか。担当セールスマンにお申込みのうえ、一連の『55 mph』キャンペーンツールをお店に常備し、お店さまの来店促進お役立ください。なお『55 mph』バックナンバーのうち第1号を除く2号〜5号は、ストックがありません。最新第6号とあわせてご活用ください。

エンジン性能アップと操安性向上を両立させる45度前傾エンジンを高剛性アルミデルタボックスフレームに搭載した「FZR400」。エンジン真上のエアクリナー容量は排気量の19倍に相当する7.7ℓ



これがワークス クオリティ

FZR400に息づくレーシング・テクノロジー

期待どおりの高性能と、これまでのイメージをはるかに超越したハイレベルな安定性と操縦性に「驚異」の声が集中する「FZR400」。さて、みなさまのお店でお客さまの評価はいかがでしょう。'86年スポーツバイク商戦の最重要商品ともいえるこの「FZR400」のすべてを、しっかりとお客さまにお伝えいただくために、前号にひきつづき技術情報・第2弾をお届けしましょう。

「パンクハズレ」

「最速・最強」6400

'84年のデビューから3年、いまや名車の名を欲しいままにしている「FZ400R」の上級モデルとして新登場した「FZR400」。その開発コンセプトはズバリ「最速・最強」の400ccスポーツです。

「最速」とはもちろん、最高速やゼロヨン加速ばかりでなく、追い越し加速やコーナーリングスピードも含めたトータルな走りで、完全に他車をりよう駕していること。そして、「最強」とは、レースにおいて勝てるポテンシャルを有したベースマシンであるということです。

「ファクトリーマシン」

「YMF400U」

「同時開発」GINTA400

このように「FZR400」の明快なコンセプトは、その精悍なスタイリングからみなさんがお感じになっているとおりのものです。が、じつはこの背景には、レースレプリカスタンダード論ともいえるヤマハ独自の考えがあります。

それは、走る（パワーバンドの広いエンジン特性）、曲がる（ライターの意志に忠実なハンドリング）、止まる（強力でコントロール可能なストッピングパワー）といったモーターサイクルの基本機能の追求は、レーシングマシン

「FZR400」と同時開発のファクトリーF3マシン「YZF400」(左)。この両車がいかに接近したものが、おわかりいただけるでしょう



ンでも一般市販車でも何ら変わるものではないということ。

これらはいずれもモーターサイクルとしての正常な進化であり、モーターサイクルがより人間に近づいていくプロセスであって、オンロードの走りを極めればロードレーサー

高性能、軽量、コンパクトな

400cc専用、ジェネシス・45度前傾エンジン

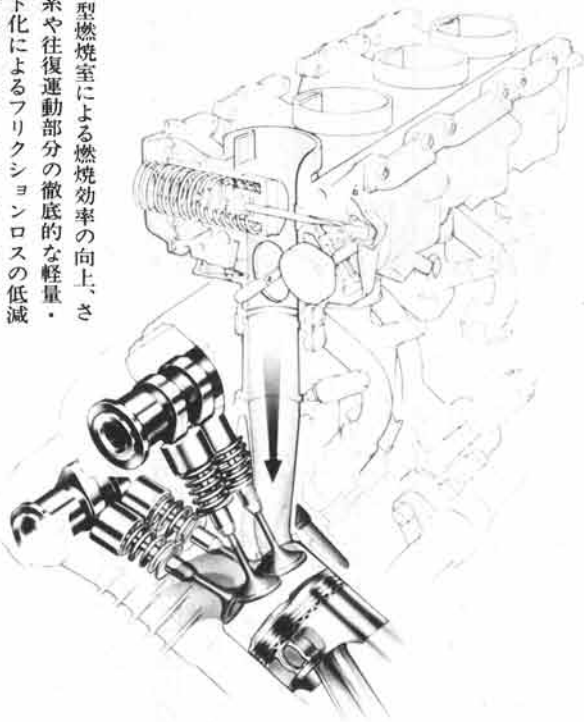
そして、400ccロードスポーツという国内市場の最激戦区で名実ともに「最速・最強」を実現させるために、まずパワーユニットとして採用したのが、FZ750、FZ250、FZ400さらにはYZF750で高性能ぶりを立証している、ヤマハ独自の高性能4サイ

に到達し、それは決して乗りにくいものなどではない、という考えです。

こうした観点から「FZR400」の開発は、ヤマハファクトリーF3マシン「YZF400」と同時に、ヤマハ・ロードレーシングスタッフの手によって進められてきました。

クル技術思想(「ジェネシス」)によって開発した45度前傾、水冷・4サイクル・DOHC・16バルブ・並列4気筒です。(「ジェネシス」の象徴ともいえるダウンドラフト吸気システム等による吸気効率率の向上、また理想的な燃焼をもたらすコンパクトなベ

卓越したジェネシス・パワーのヒミツ、ダウンドラフト吸気



ントルーフ型燃焼室による燃焼効率の向上、さらに動弁系や往復運動部分の徹底的な軽量・コンパクト化によるフリクションロスの低減や許容回転数のアップによって、このニューエンジンは、59馬力/12000回転の最高出力、3・9kg・m/9500回転の最大トルクを発揮、とくに中低速から高速まで回転全域にわたってのシャープで伸びのよいレスポンスが特徴となっています。

これは最大トルク回転数がFZ400Rに比べ500回転下がっているにもかかわらず逆にトルクそのものは0・2kgアップしているカタログ・データからも明らかで、このフラットなトルク特性は「FZR400」のコントロールラプな操安性に直結。確実にコーナリングスピードを高めているのです。またとくに、59馬力の最高出力は、現在の

アルミデルタボックスフレームを中心に

高次元バランスの追求で走行性能を向上

さて、こうしたハイレベルなジェネシス・

パワーを、走りのパフォーマンスアップに直結させているのが、アルミデルタボックスフレームに象徴される高性能な車体まわり。具体的には徹底的に追求された軽量・高剛性化、前後重量配分、サスペンション性能、超扁平ラジアルタイヤ等の高次元バランスに他

400ccクラスの最高値としてライバル各車同一のもですが「FZR400」ジェネシスパワーが秘めた潜在的なポテンシャルの高さは、同一ベースのファクトリーレーサー「YZF400」が、じつに「75馬力」というハイパワーを抽出していることから、容易にご想像いただけることでしょう。

さらにこのニューエンジンは、400cc専用で新開発したもので、これにより安定した高性能を確保しながら、同時にFZ400Rに比べてエンジン単体で7kgもの軽量化を達成。またクランク軸・ドライブ軸間寸法で24mmもコンパクトになっています。

なりません。

ファクトリーレーサーYZR500、YZF750からビュアスパーポーツYZR250まで幅広く採用されてその高性能ぶりを立証しているアルミデルタボックスフレームは、ご承知のとおりステアリングヘッドとピボット部をアルミボックスで直線的にむす



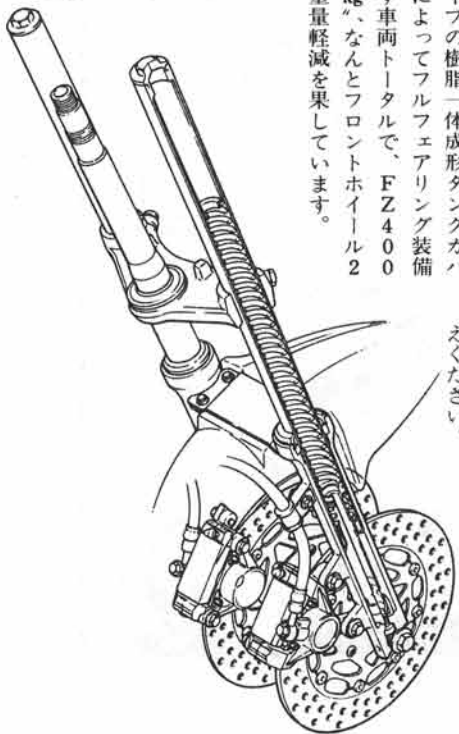
び、さらに側面形状をデルタ形にしたもの。これにより鋼管フレームをはるかにしのぐ高剛性と軽量化を両立させています。

実際「FZR400」のアルミデルタボックスフレームもFZR400Rに比べて、45%も剛性をアップ。さらにこれを一般的な400ccモデルと比べて、エンジンにおけるパワーウェイトレシオに相当するフレーム重量1kg当りの振り剛性をみると、 $3 \cdot 2 \text{ kg} \cdot \text{m} / \text{deg} / \text{kg}$ と約60%も高い数値を示しているほどで、これは750ccクラスに匹敵する高剛性なのです。

そして、この高剛性アルミデルタボックスフレームの持ち味を100%活かすために●剛性を自在につくり込んでいける魔法のタイヤともいえる偏平ワイドラジアルタイヤ●デルタボックスフレームとワイドラジアルタイヤにあわせて数十通りものテスト結果から決定したフロントアライメント●限界特性近隣のクッション性能をアップした前後のサスペンション●フローティング・ディスクブレーキ●CdA値0.280というすぐれた空力特性のフルフェアリングなど、各部の高次元バランスを徹底的に追求して、一段とハイレベルな走行性能を確保しています。

一方軽量化の面でも「FZR400」は、アルミデルタボックスフレームをはじめ軽量コンパクトなニューエンジン、偏平ワイドラジアルタイヤ、中空スパークホイール、YZF750同タイプの樹脂一体成形タンクカバーなどの採用によってフルフェアリング装備にもかかわらず車両トータルで、FZR400Rに比べ、8kg、なんとフロントホイール2個に相当する重量軽減を果しています。

38の大径チューブで剛性アップ、また低張力ピストンリングで作動性を向上したフロントフォークと282の大径ディスクをフローティングマウントしたフロントブレーキ



実感ノ ひとクラス上の走り

このようにして鍛え抜かれた「FZR400」の走りのクオリティ。それは、高度な走行安定性を確保したうえで、操縦性、軽快性を追求していく、というヤマハスポーツに一貫したものが「FZR400」は、お乗りいただきたいすべての方に、これまでのミドルスーパースポーツよりも、ひとクラス上の走り、をしっかりと実感させてくれることでしょう。

ご参考までに「FZR400」の定地テストにおける追越し加速性能をご紹介しますと、初速40km/hでは、FZR400Rに比べ3秒後に半車身、5秒後に1車身、さらに初速100km/hでは、わずか3秒後に1車身、5秒後には2.5車身もの差をつけるほどの加速性能を発揮しています。

そして「FZR400」のこうした高次元の走行性能を支えているのが、制動能力、ブレーキ剛性、 M 特性までしっかりと吟味し、つねに良好なタッチフィーリングが得られるトリプルディスクブレーキであることも加えて、ファクトリーマシンからロードスポーツにまで通じるヤマハの走りの真髄「FZR400」に注がれた、ヤマハ・ワークスオリエィ。を、どうぞしっかりとお客様にお伝えください。



体感！実感！ 新次元の操安性

400cc初のジェネシスパワー、さらにアルミデルタボックスフレームと超偏平ラジアルタイヤなどの最高のバランスが作り出す新しい走りの世界——前ページまでにご紹介した「FZR400」の走りを、とくにスポーツユーザーが関心を寄せる“パワー特性”と“操縦・安定性”に絞って、販売店社長さんと二輪専門誌テストライダー氏にうかがってみました。



乗りやすさを生む フラットなパワー特性

田口正光社長
YSP目黒中央／東京都目黒区

エンジンとキャブのマッチングがとても良好で、低回転域から高回転域まで、実にフラットでなめらかな特性ですね。

パワー、トルクとも谷を感じさせないフィーリングで、しかも750ccクラスに匹敵するトルク感が味わえるんです。それにしても“ジェネシス”パワーにはあらためて驚きます。

ポリーム感じっぱいの車体ですが、TZR250と同じくらいの感覚で取りまわしが可能。コーナーでの倒し込みの時にも、意識してマシンをひねったりする必要がなく、自然と入っていきくれるんです。

アルミデルタボックスフレームとラジアルタイヤのマッチングも良好で、接地感が抜群。ギュッとタイヤを滑らせても、一定のところで滑りがおさまってくれるので怖さがないんです。とにかくトータルバランスが売りものですね。



250cc.なみの 軽快な操縦性

大島孝治社長
大島オートサービス／埼玉県北葛飾郡

スムーズな回転の伸びがあって、しかもトルクフル。だから、ひと昔前の400ccのようにギヤチェンジを頻繁にしなくても済むわけです。コーナーからの立ち上がりでも無理にシフトダウンしなくていい。それだけ無駄のない走りを生むパワー特性を持っていますね。

TZR250のパワーユニットをそのまま4サイクル・ジェネシスに置き変えたというフィーリングです。つまり250cc並みの操縦性をもっている。それでいて安定感がある。例えば急制動時、フロントフォークは確かにストロークする訳ですが、だからといって乗り手はバイクの姿勢変化を感じることもない。また急加速したときのフロントの浮きあがり現象もほとんど感じられないんです。

車体のポリームは750ccクラス、乗ってしまえば250ccの軽快さのあるマシンですね。

パワー特性

操安性





軽快性と安定性が 見事に両立

川島賢三郎さん
月刊『モーターサイクリスト』誌テストライダー

スムーズな吹きあがり、そして中速（といってもヤマハコースでは8千〜9千回転）でのトルクの太さが印象的です。はじめのうち、S字を3速で走っていたんですが、結局4速で十分だということに気がきました。それだけトルクがフラットになっているんです。それにしてもジェネシスは理にかなった思想。インライン4・DOHCというメカニズムが、ジェネシスという思想によって、ここまで進化した———ということを痛感しました。

基本的にはFZ400Rの軽快なハンドリング特性を継承しながら、それをさらに軽快な方向にもってきています。しかも大切なのは、その中に安定性を出していること。軽快性と安定性、この相反する要素が見事にバランスされているんです。だから、ラインを1〜2本間違えてコーナーに入っても、最後の立ちあがりでは自分の思いどおりのラインをとることができる。レーサーにとっても、これは必要不可欠な要素ですね。タイヤもイイ。ヘアピンの立ちあがりですズーッと滑らせたんですが、ツイタテにひっかかったような感じですぐにグリップをとり戻してくれる。バイアス・タイヤのように、いつまでもズルズル滑ってしまうことがないんです。



トータルな乗りやすさが 一番の魅力

坂田典聡さん
月刊『オートバイ』誌テストライダー

とても信頼感のもてる特性ですね。従来のFZ400Rに較べると全域でパワーがあがっている体感を受けます。パワーとトルクは、各回転域で確かに波がある訳ですが、決してそれを意識させないなめらかな特性になっています。また、アクセルのオフに対するエンジンブレーキの効きもマイルドで、それが乗りやすさにつながっています。

トータルとしての乗りやすさが一番の魅力です。人間とマシンがうまく融合していく姿があるんですね。とくに限界付近でライダーに不安感を与えない特性には感銘。予期しないマシンの挙動がなく、唐突なところが全くないから、いつも安心できるんです。

操安性の「質」が、どの車速でも同じであることにもビックリ。だから車速に応じてマシンコントロールの「量」だけを調整すればいいわけです。ラジアルタイヤの接地感も好感がもてるし、とくにこの接地感にはビギナーがちょうど欲しがっている感覚だと思います。



手ごたえ、確か！ ニユーヤマハ

mint

明るいカラーと可愛いスタイル とっっても清潔なカンジが 気に入りました。

1年のうち5ヶ月は雪に埋れてしまう北の百万都市・札幌。ここでも雪どけとともに新発売された「ミント」は大好評で、可憐なスタイルがはやくも、ヤング女性の心をキャッチしています。

札幌市内の電機メーカーにお勤めの末永理佳さん（20才・札幌市）も、いちはやくミント・ユーザーになられたお1人。昨年の6月に普通免許を取得し、初めて手にする自分の

乗りものとして、さわやかなスイートイエローの「ミント・デラックス」を選びました。「16才頃から、なんとなくスクーターに乗りたくな、とは思っていたんです。でも、スクーターについて何も知らないまますぎてしまった。それが、会社近くのバイク屋「ユーシヨップ平岸」さんに行ったらまっ先に「ミント」が目について……。
すごくたくさんのスクーターが並んでいる



さわやかなテレビCMFとおしゃれで可愛いスタイルが、ヤング女性の人気を呼ぶミント。性能、外観ともに一層の磨きをかけて新登場のニユー・シヨグ。さらに、遊びごころいっぱいスタイルと走りが、50ccスポーツの世界に新風を吹き込むYSR50……この春から相ついで新登場したヤマハのニユーモデルが、お客さまの間で、お店でつきつきに新しい話題を生み出し、順調なスタートを切っています。

中でも、明るくて、さわやかなミントのカラーが一番目立っていましたからね。とっても清潔な印象、スタイルもとってもカワイイくて、すぐに気に入ってしまいました。

実は私、スクーターに対して「シヨッピン」グなんかに乗っていきんだから、軽いスクーターがいいなア、押し歩さも楽な……」なんていうバク然とした希望を持っていたんですけど、お店の人の話を聞いたらこの「ミント」は、スタイルばかりでなくて軽さでも、私の希望にピッタリなんですな。

そのうえ「新発売されたばかり」と聞いて買うことに決めました。だってまだ乗って

る人が少ないのは、新しいものの好きの私にとっては、とっても魅力ですからね」と白い歯を輝かせながら、明るく話してくださいました。さて、ちっと気になる「ミント」の使用感は一

「テレビ・コマーシャルのさわやかなイメージが友達の間にも知れ渡っていて、「ミント」に乗ってる私は、みんなに羨ましがられているんですよ。

いまは、通勤と買い物に使っていますけど、エンジンの始動も快調。とても調子いいんです。もって運転を練習して、遠くまで行ってみたいワ。夜の海なんか見にネ……」

とっってもよくなる「ミント」 友だちの間でも人気者です。

さて、もうひとりの「ミント」ユーザー、東京都東大和市の元気いっぱいの女子高生・佐藤智子さん（16才）にもうかがいました。

佐藤さんは、学校の課外活動で文芸部に在籍するかたわら、お友達と結成したロックバンドでボーカルをつとめ、さらにボランティア活動にも積極的に参加している行動派・現代っ子です。

「私、最初は「チャンプ」か「トライ」が欲しくて近くのYSP東大和南さんへ行ったんです。友達にオートバイ好きが多くて、集まるといつもスクーターの話なんかしてたのでわかっていだし、とにかく速いスクーターが欲しかったんです。



そうしたらお店の人、そのお店先輩の家人ですけど、「もう少し待てば新しいのが出るよ、って教えてくれたんです。そして、4月になって、実際に目にしたのが、ミント。」

第一印象がとってもカワイかったので、すぐに気に入って決めてしまいました。一番ソフトラコーラルブルーの、ミント・カスタムです。メーターもキチッと好いて好き、スタートもとっても軽そうでしたしね。



実際に乗っても良く走りますよー。バスや電車なんかより安上がりなんでどこへ行くにも乗って行きます。友達の間でもすごく人気があるんで良く貸してあげますよ。

先日は、父が私の運転を心配ばかりしているんで、練習をかねて親娘でツーリングをしてきたんですけど、父のバイクに負けないくらい良く走ってくれました。私とっても「ミント」が気に入っています！

①一層高まるジョグの信頼感で ②レース派からツーリング派まで ③「やっぱり幅広いお客さまを獲得！」

さて「ミント」につづいて、装いも新たに5月から新登場のニュー「ジョグ」。いまやスクーターのスタンダードとして定着したジョグは、さらにパワフルに、カジュアルに生まれ変わってお客さまにどんな印象で迎え入れられているのでしょうか。スクーターレースへの積極的な取り組みによってヤングスクーター需要を拡大している「YSP豊橋南(愛知県豊橋市)加藤静利社長にうかがいました。

は、スポーツバイクにも乗っている人がほとんどなんです。ですからスクーターの性能に対する評価も、スポーツバイクに対するのと同じで、とてもシビアですね。本質的な走りや評価している。

そんな彼らの間でジョグは「10インチホイールなので走りも安定している」「速くて、乗りやすい」と評価も定着しているんですね。そこへ5・3馬力にパワーアップしたニュー「ジョグ」の登場ですから、うちのクラブ員



スクーターレースを楽しむお店のクラブ「チーム FULL BANK」のみなさんと加藤社長。「ニュージョグはいまクラブの話題を独占中！」

の間でも大きな話題になっていますよ！
一方、うちはキャンパス需要も多いんですけど、学生の間では「ジョグ」は、カジュアルなトランスポーターとしても定着しているんです。「品良く、気軽に乗りたい」「派手なのはイヤ」という優等性ヤングにも最高にウケがいいんです。

カラーリングも一新、とてもセンス良くリフレッシュしたニュー「ジョグ」は、こうし

たお客さまにも喜んで迎えられそうですね。さらに、最近増えているスクーター・ツーリング派のヤングにもね……。
ともかく「ジョグ」の実績は、お客さまにも、われわれ売り手にも最高の信頼感を与えてくれるもの。それが、小手先のチェンジでなく、性能と外観をしっかりとレベルアップして新登場したのですから、うちとしても期待は大です！



YSR50 中途半端じゃない レーシンググマインドが最高

さて最後は、その本格的な走りとおふれるレーサーマインドに話題が集まる。YSR50。4月27日、三重県の合歡の郷ではヤマハ関西主催により、YESSバイクヒレッジが

開かれましたが、そのYSR50試乗会でもお客さま、また販売店さんから、YSR50が新しく新しいライディングスポーツの世界に、期待の声が集中していました。



「ポジションといい、シートといい、すべてレーサー感覚で最高。それにフレームやタンクなどの仕上げもいいし、装備も充実している。走りも予想以上にトルクがあって、とても乗りやすいですよ」
(敦賀和彦さん・19才神戸市・写真中央)



「待ちに待った、遊びどころで乗るバイクの登場ですね。とてもよく走る。それに中途半端じゃなく、テッテーしてレーシーなのがとても気に入りました」(寺尾裕之さん・25才、和歌山市・バイクハウスみに従業員さん写真右)

「おもしろいネー。車体も軽くて、思い通りのラインが自然にとれる。ホイールベースが長いこともあって、オートバイに乗っているという安定した感覚があるのです。適度にぶらさがりフォームも楽しめますね……」
(鈴木博さん・32才・大阪市・ロードレース国際A級ライダー)



「スポーツバイクのフィーリングがいっぱい。それでいてスクーターからの乗りかえの人にも全然異和感がないのがいいですね。だから原付免許しかなくてスポーツバイクのフィーリングを楽しみたいという男の子にぜひ勧めたいですね。「レースなんて全然知らないっ」て男の子にドンドン勧めたい」(辻田准子さん・YSP大阪南)



85年ボケバイクチャンピオン、高橋桃子ちゃん(中この華麗な走り) (スポーツランドSUGOで)



「もう10台も予約が入っています。とくにTZR250などスポーツバイクのお客さまのセカンドバイクが多いようですね。レースなどで、ミニバイクレース派にぜひアピールしたいですね。YESS大阪南ブロックでも、いま開催しているスクーターレースに、このYSR50が参加できるクラスを追加する予定なんです」(YSP大阪南・水上憲次店長)

※詳しくは、「Y.E.S.S.ふれず」をご参照ください。また、6月中旬迄には店頭掲示用の「Y.E.S.S.互版」も発行いたします。スタッフへのPRをよろしくお願いたします。



遊びの世界を広げるY.E.S.S.が この夏も皆さまのご商売を応援します!

①どこよりも安く、北海道へ空の旅。

Y.E.S.S.ジェットツーリング・システム

Y.E.S.S.と日本航空(JAL)とで共同開発した「Y.E.S.S.ジェットツーリング」が、このほどシステム化されY.E.S.S.ショップの皆さまにいつでもご利用いただけることになりました。

まず第1弾は、東京、大阪、福岡からの北海道へのジェットツーリング。Y.E.S.S.ならではの低料金をぜひ多くのスタッフの方がたにお伝えして、スポーツバイクユーザーの活性化をお図りください。

〈Y.E.S.S.ジェットツーリングIn北海道・料金システム〉

バイク	出発空港	Y.E.S.S.料金
400cc以下	羽田・発	¥ 72,000
	大阪・発	¥ 100,000
	福岡・発	¥ 125,000
401cc~750cc	羽田・発	¥ 82,000
	大阪・発	¥ 117,000
	福岡・発	¥ 147,000
751cc以上	羽田・発	¥ 89,000
	大阪・発	¥ 124,000
	福岡・発	¥ 155,000

※料金には、一流ホテルの1泊・朝食代も含まれています。
※但し、7/25-8/25のハイシーズンは、シーズン料金が加算されます。
※外車およびフル装備車は別途料金になる場合もあります。

②レース翌日には平選手との会食も。

「ガンバレ!平忠彦」世界GP観戦ツアー

世界GP250ccクラスにフル出場する平選手の活躍ぶりを、実際その目で確かめ応援しようと企画したこのツアーは、8月5日から13日までの9日間。ロードレースファンはもちろん、平ファンの女性にも、広く呼びかけてご参加くださいますようお願い致します。

アンダーストープ(スウェーデン)=世界GP観戦、平選手を囲んでの昼食会……etc.

〈実施要項〉

■実施時期

1986年8月5日(火)~13日(水)

■訪問地

①パリ(フランス)=半日市内観光、2日間フリータイム②コペンハーゲン(デンマーク)=半日市内観光③ヘルシングボルク(スウェーデン)=フェリーで入国④

■募集人員

70名(定員になり次第締切り)

■参加資格

Y.E.S.S.スタッフ(ツアー申込み時の入会可)

■参加費用

1名様=416,000円(5朝食・2昼食付。渡航手続き費用は別途)

■旅行主催

日本交通公社(協賛・日本航空)

■申込先・問合先

日本交通公社・浜松支店
静岡県浜松市鍛冶町312-18
☎0534-53-2115、0534-54-6981

③多くのお客様にレースの楽しさを。

チャレンジ・ザ・4H&8H耐久レース

Y.E.S.S.スタッフのモータースポーツごころの昂揚と、レース活動への参加意識の向上をめざして、7月26日(土)に鈴鹿サーキットで行なわれる4時間耐久レースにY.E.S.S.からもFZR400を1台参戦させることになりました。

イメージガラル募集*の2つのスタッフ参加キャンペーンを実施いたしますので、よろしくご理解の上ご協力くださいますようお願いいたします。

〈チームスポンサー募集・要項〉

■対象

Y.E.S.S.スタッフ(参加申込み時の入会可)

■協賛金

これにともないY.E.S.S.では、スタッフを対象として「チームスポンサー募集」および「Y.E.S.S.

一律2,000円(1名)

■特典

①Y.E.S.S.オリジナルの「チャレンジ・ザ・4H&8H耐久レース」記念Tシャツをプレゼント②同・ステッカーをプレゼント③レース当日に協賛者名簿をバドックにてボード掲示
☆さらに、抽選で1名に「YSR50」(チームY.E.S.S.カラー仕様)をプレゼント!

■申込方法

現金書留にて2,000円および以下のデータ(郵便番号、住所、氏名、電話番号、年齢、職業)を明記の上、下記の申込先までお送りください。

■締切

1986年7月10日消印有効

■申込先

〒438 静岡県磐田市新貝2500
Y.E.S.S.本部事務局
チームスポンサー募集係

〈Y.E.S.S.イメージガラル募集内容〉

■資格

Y.E.S.S.スタッフの女性(参加申込み時の入会可)

■募集人員

2名

■特典

①交通費・宿泊券・ビット入場券提供②Y.E.S.S.イメージガラルユニフォーム支給③Y.E.S.S.オリジナル「チャレンジ・ザ・4H&

8H耐久レース」記念Tシャツをプレゼント④同・ステッカーをプレゼント。

■役割

バドックでのお手伝い

■申込方法

上半身と全身の写真および以下のデータ(郵便番号、住所、氏名、電話番号、年齢、職業、身長、体重)を明記の上、下記の申込先までお送りください。なお未成年者は保護者の承認が必要となります。

■締切

1986年6月30日消印有効

■申込先

〒438 静岡県磐田市新貝2500
Y.E.S.S.本部事務局
イメージガラル募集係

■お知らせ■

'86鈴鹿4時間&8時間耐久レースに出場するY.E.S.S.スタッフのライダーには、もれなくY.E.S.S.より特製Tシャツ&ステッカーをプレゼントいたします。

エントリーされるY.E.S.S.スタッフは、官製ハガキにて住所、氏名、Y.E.S.S.ナンバー、MFJライセンスナンバー、参加レースを明記し、Y.E.S.S.本部事務局(〒438 静岡県磐田市新貝2500)までお送りください。

●チームのすべてのライダーがY.E.S.S.スタッフの場合は、ライダーが各ライダーのデータも書いてお申込みください。

④遊びごころを無限に広げよう。

Y.E.S.S.サイン・オブジェコンテスト

毎年恒例の真夏の祭典Y.E.S.S.サマーフェスティバルの開催がよいよ近づいてまいりました。全国8会場ではそれぞれ趣好を凝らしたイベントが繰りひろげられますが、さらに今年はY.E.S.S.スタッフの共通合図「Y.E.S.S.サイン」をテーマとした「オブジェコンテスト」も開催しますので、ぜひ多くのご参加をお願いいたします。

〈オブジェコンテスト要項〉

■内容

「Y.E.S.S.サイン」をテーマに、立体的なオブジェを作成(素材および大きさは自由)し、各作品のユニーク度、ゲージュツ度、オリジナル度、完成度……を競います。

■審査

サマーフェスティバル会場審査して、優秀作品3点を選出。

■資格

Y.E.S.S.スタッフ(但し、個人参加もグループ参加可)

■応募

ヤマハ営業所へエントリーを申し出て(締切=7月10日)、作品は各自が当日にサマーフェスティバル会場へ持参。エントリー料は無料。

■賞典

トロフィーほか豪華賞品を用意。☆さらに、各会場の優秀作品を集めて「Y.E.S.S.ふれず」紙上にて全国大会も開催。最優秀作品3名に「YSR50」(チームY.E.S.S.カラー仕様)をプレゼント!

お便り
待っています！

普段のお仕事や生活の中の、ちよつとした話題をお知らせください。ご商売に
関すること、お客さまにまつわる話題、
ヤマハやヤマハニュースに対するご意見
ご希望など、どんなことでもけっこうで
す。写真やイラストも大歓迎です。

なにしろ遊びと話題の
豊富な店です

佐藤美さん・36才（オートサイクルさとら
愛媛県川之江市）

月5000円の会費で自由に使える3000坪
のトライアルコース、それにトライアルスク
ールに各種大会、また全員YES加入のツ
ーリングクラブなど、なにしろお客さんに遊
んでもらうことを第一主義にガンバッテいま
す。商売的にはむずかしいことも多いですが、
自分自身も好きですから、やる以上は納得す
るまでやりたいですね。それに女房もこうい
ったことには理解があつて、最近もバイクを
SRXからTZRのブルーに替えただばかりで、
ツーリングからトライアルまで、なんでも私
と一緒に来て来ます。なにしろ話題の豊富
な店ですから、ヤマハニュースさん、一度せ
ひ取材に来てください。

もっと女性ライダーの
話題をとり上げて！

斉藤邦友さん・23才（モトセンターさいとう
茨城県勝田市）

自転車から輸入バイクまで幅広く扱う店の
サービスマンです。今考えていることは、店
のクラブを発足させること。お客さんから、
クラブを作ったの声も多いのです。レベル
に幅がありすぎて、どうやったら上手にまとま
るか思案中です。良いアイデアがあつたら教

あんなお店、こんなお店

とてもやさやかで、ありふれた毎日だけど...

えてください。

と言ったところで話は変わりますが、私は大
のロードレースファン、以前は片山信二君な
んかとも一緒に走っていたことがありまし
ても今は子供もできて、ロードレースとい
うわけにもいかず仕事一本です。たまにはお客
さんとレースの話に花を咲かせることもあり
ますが、将来はこの経験を生かして今の店を
ベースにレース用パーツの開発なんかもやっ
てみたいですね。

最後に、女性ライダーが増えてるので、
ヤマハニュースでももっと女性の話題を取り
あげてください。



夢は本格的モトクロスコース

小松隆さん・31才（樺モトワールド山口店
山口県吉敷郡）

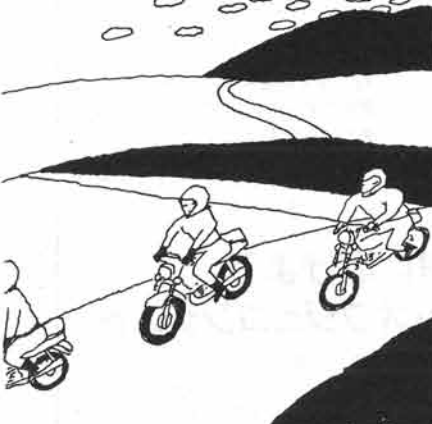
住所だけみるとすこい田舎のようですが、
ここは山口市のとなり町です。商圏は学生の
多い所なので、今は彼らをなんとかキャッチ
しようと、店内装飾を色いろと考えていま
す。ポスターを貼ったり商品の配置をかえたり
と工夫はしているんですが、なかなか良いア
イデアが浮びません。お店づくりの具体的
な情報をもっともっと載せてくれることを、ヤ
マハニュースに期待しています。
それと、個人的な趣味ですが、モトクロス

が好きなんです。山口県にはちゃんとしたコ
ースが少ないので、もっとできることを心
から祈っています。関係者のみなさん、よろ
しくお願いします。

ヤマハニュースは良きアドバイザー
酒瀬川利明さん・45才（ニューオート酒瀬川
鹿兒島市）

毎号楽しみに「ヤマハニュース」を読ませ
てもらっています。いつも届くとすみずみま
で目を通してありますが、中でも新商品紹介の
きれいで見やすいカラーページや、他地域の
同じ販売店さんの活動情報などをとくに参考
にしています。

もうすでにヤマハニュースは、5年間分の
ストックがあり自分の仕事を進めるうえで、
よきアドバイザーとして欠かせないものにな
っています。
また来店されるお客さまも自由に閲覧でき
るようにしてあるため、若いお客さんにもヤ
マハという企業の歩みや活動を理解してもら
うのに、とても役立っています。
お店に来る担当セールスの方をはじめヤマ
ハの好きなお客さん、販売店にとついても
身近なところでいってくれることです。今後も
わたしたち販売店の役に立つ情報を満載した
ヤマハニュースを期待しています。



今年はおフロートの
輪を広げたいですね。
山本秀人さん・32才（YSP前橋／群馬県前
橋市）



昭和58年6月に店をオープンしました。今
では25才から上のアダルトユーザーがお客さ
まの中心。いつも集まると「オートバイの遊
びは次に何をしようか」とか「レースでヤマ
ハが勝った」とか、みんなで一緒に考え行動
をしています。

そんな中、今年の春に店から19km（バイク
で約30分）の赤城山の南面に土地を借りてオ
フロートコースをオープンさせたんです。
自分自身がモトクロスをやっていたことも
あって多くのライダーにおフロートの楽しさ
を知ってもらえたかったので、コースもモト
クロスコースと、セロー225などで楽しめ
るトレールコースの2つを作りました。

いまのお客さんは、オンロードに乗ってい
た人がオフも楽しめるというように幅広い
バイクライフをエンジョイされていますね。
今年はこのコースを使ってエンデューローレ
ースとオフロードYRSで、オフの世界を多
くのライダーに広げたいと思っています。

お便りの宛先は
〒438 静岡県磐田市新貝2500
ヤマハ発動機株 広報室・宣伝課
「ヤマハニュース」編集部まで

作り込みにみるヤマハらしさ

美しく、どこか温か味を感じる
ヤマハのモーターサイクルデザイン。
テクノロジーの究極がそこにある。

■ヤマハらしさを 裏付けるもの

厳格な素材選択と徹底した作り込みが、実はヤマハ・デザインの基本スピリッツ。卓越した走りとは、そんな技術者の伝統が根強く生きているからだ。

前回にとり上げた「デザインにみるヤマハらしさ」では、優れた技術力が優れたデザインを成立させ、さらに加えて気品というかけがえない要素をヤマハは伝統として持ち続けていることを証明した。

今回はさらにデザインの本質を掘り下げ、デザインと表裏の関係にある材質（素材）と色あい、そして仕上げの方法について、そのヤマハらしさをSRX600/400やXV750ピラーゴを例に追求してみよう。

SRXはビッグシングル、XVはVツイン型こそ異なれいずれもモーターサイクルらしい深い味わいを約束する空冷式エンジンである。メーカーからユーザーの手にモーターサイクルを手渡す販売店のみなまには、まずエンジンの魅力について周到なる認識を持っていたかなければならない。早いハナシが空冷の持つ意味あいだ。

たとえばSRX。新時代のビッグシングルという響きから、どうしても技術者としては動きのあるフォルムの中にカチッとしたいイメージを欲していた。そこでエンジンとフレームのすき間を極力なくして、ビッグシングルの存在感をクローズアップさせたという点からまずあげられる。

つまり、空冷式で全体のポリウム感を出しつつ、フレームワークによって新しい感性(新時代)のビッグシングルを提唱したというわけだ。もちろん空冷式にはシングルというビッグシングルとは切っても切り離せない重要な要素を、ヤマハはやはり大切にしている。

XVについてはどうだろう。こちらは、ゆったりとした走りの味を提供する空冷75度Vツインだが、これはより先鋭化する並列4気筒スーパーバイク車に対する、もうひとつのヤマハの提唱として生まれたものだ。'81年にデビューしたこのエンジンはまずXV750スペシャルとXV750Eに用いられ、両車とも悠然とした走りでも多くのマニアの心をとらえた。誤った認識をしないで欲しいことは、当然のことながら車体系の作り込みがエンジンと絶妙にマッチングしていたからであるが、やはり、その要となったのはエンジンである。

XV750スペシャルはその後、より徹底したアメリカンとなるべく、XV750ピラゴへと進化を遂げる。エンジンの各パーツ、たとえば左右クランクケースカバー、カムシヤフトカバーなどをクロームメッキ仕上げすることで空冷Vツインの美観をさらに高めることに成功。これによりXVのオーナーは急増することになる。

だが、XVの進化をそこまで止めておかなかつたところにヤマハらしい熱い思い入れが感じられる。それがこの4月に登場したXV750ピラゴ・スポーツホイル仕様である。ヤマハの技術陣が気付いた偉大な点は、「空冷はより空冷らしく」だった。水冷エンジンではけっして演出できない力強い量感をとうとうこのXVで発見したのである。それ

はまず空冷ならではのシリンドラーフィンの大聖化である。アメリカンはそもそも繊細でありながら力強い造形も要求される高度なモーターサイクルである。各部のメッキ化やスリム化だけではけっして表現できない部分を、ヤマハはこうして見事に達成したのである。

さらに加えると、XV750スペシャルから続いているプレスバックボーン・フレームの採用が、さらにXVのエンジンの存在感を大きくしていることに気付かなければならない。クレードルタイプではエンジンのせつかくの量感が、フレームに包み込まれて、なんのため空冷かわからなくなってしまう。こうしてXV750ピラゴは走りの味、見た目の迫力の双方をみごとに両立させたのだ。

注意深い方なら、さらにエンジン部分の進化にお気付きであろう。従来のスリムさを強調したクランクケースカバーを今回は丸みのある、よりふくよかなものへと変更。シリンドラーフィンと同様にエンジンの存在感、しかもアメリカンにふさわしい進化のトライだったのである。もちろんそれらの進化は外観的なものだけでなく、より安定した冷却性とメカノイズの静粛性を狙ったものでもある。

■フォルムとのバランスを究極とする色あいの求め方

さて、次に「色あい」について考えてみよう。美しきフォルムも仕上げの良い各パーツも、けっさよく「色あい」が最終的にモノをいってやる。SRXについてはとくにその、「色あい」にも奥深いものがある。たとえばフレームだ。

SRXのフレームは角型パイプのダブルク



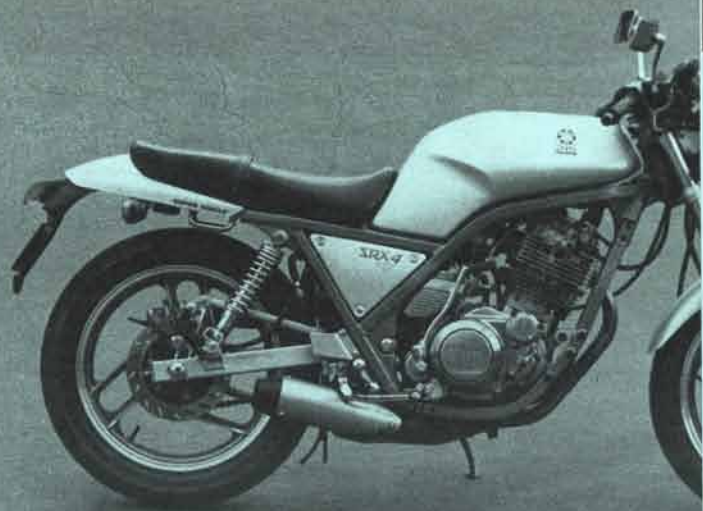
レードルタイプだが、まずはその「チタニウムクグレイ」という色の使い方が注目される。アルミ材以外ではフレームの美しさを演出できないとされてきたところにこの色のアプローチ。それはまさに革新であった。そして、さらに驚かされるのは、チタニウムクグレイで色どられたフレームも各セクションによって鋼の性質を変えていることだ。フェューエルタンクが載る部分と、エンジンの熱やねじれのGに適應できるクレードル部分(エンジンを包みこむ部分)とに使いわけられているといった凝りようである。

次の「色あい」についてはエキパイ部分にステンレスを使用したことである。鋼のさびやすさを補うためにクロム18%、ニッケル8%を鋼に含ませたものが「不銹鋼」と呼ばれるステンレスの正体である。単に走りの味わいだけでなく、ルックス上の味わいを技術者が本気で求めた結果がここにある。焼けてくると色が変わるだけでなく、走り方によって個人差が出てくる。ここにこのエキパイの意味がある。もちろん、素材として鋼よりも耐シヨック性、耐放熱性の点でもステンレスは優れている。なお、エキパイの色の段階はキツネ色から

こげ茶に変わり、もう少し走りこむと紫っぽくなり、最後は青紫になる。通常走行ではまずめつたにお目にかかれないというが、ここまで変化を楽しめるものはほかにない。「色あい」その2はアルミ材の使い方である。アルミは銀白色の美しさを長く保ち、さらにその光沢はやわらかな輝きを含み、結局見るだけではなく思わず触れてみたくなる魅力の素材といえるだろう。SRXのカチツとしたフレームワークをさらに後押ししているのがアルミ製のサイドカバーだ。

SRXは各部の素材が持つ「色あい」をスタイリング上のキーポイントとするために、あえて派手なカラーリングや装飾を施していない。各部の素材を有機的に統合することで単気筒でありながら、全体を力強いものにしようとしたのである。

かつてこのような手法はなかった。ただやみくもに作り込んでも統合された力強いフォルムは生まれない。確固たるコンセプト、具体的には新しいビッグシングルのあり方を時間と情熱をかけて、きっちりと考え尽したからである。理念あるもののみ、優れたものを手中にできる。そんな哲学をヤマハから感じ取ることができよう。



■手で触れ、味わうを 根源とする作り込み作業

ヤマハのエンジン、そして色あいについて考えてきたが、先ほどから幾度となく触れてきた「作り込み」について具体的に造形の点からアプローチしてみよう。

XV750ビラゴはスポークホイール仕様の登場によって、よりアメリカカンらしいフイニッシュを見たことにお気付きであろう。まずは重厚感を増したエンジンにバランスするように12ℓから14ℓに容量アップされたフューエルタンク。メッキフェンダーからフューエルタンクと同じ手の入った同色採用の前後フェンダー。しかもリヤフェンダーにいたっては、より深いアールを持たせてスベシヤル感を高めた造形に変更している。そしてスタイル上のグレードアップだけでなく、ツリーリングをする上でも便利なシシーバーの標準装備化など、チェンジのためのチェンジではなく、より完成度を高める変更を絶え間なく行なっている点が多くのマニアに感銘を与えている。

SRXについては最初からかなりの完成度を持つていることが印象深いが、「作り込み」の中でもっとも心に残っているのが「フューエルタンク」である。前側に丸味を持たせて暖か味を出し、なおかつ下部の溶接部をフレームの内側に追い込んでいる。これは技術的に困難なためにコスト上かなり不利となるが、先ほど触れたように、エンジンをギッシリと包み込む車体作りのための不可欠なポイントになっているのだ。もし、フューエルタンクとフレームにかなりのすき間ができていたならば、このSRX全体のイメージは大幅に変っていったことになるだろう。

ヤマハ流のこの作り込みは、遠い昔から伝統として根づいたものであることがYA1を通して知ることができる。そう、当時の125cc車よりも1万円高い（昭和30年当時の1万円だ）なりのしっかりとした作りはシンダーやクランクケースまわりの仕上げに表わ

れていた。ちょっとした外観も重要だが、ちょっとしたプロでなければわからないような点までいかに大切にしていたかがわかる。

「作り込み」は派手なペイントのようにベタベタと塗って見せるものではなく、真にモーターサイクルを愛する人が、実際に手で触れ、乗って味わうことで始めて理解できるものである。

ペイントといえばXVの秀逸な塗装にも驚かされる。一台一台が練達の塗装職人によって仕上げられているのである。機械ではけっして味わうことのできない奥深い色あいをXVは心から堪能させてくれる。

そしてしっかりとペイントされたフューエルタンクの上にはプライドのあかしであるヤマハのエンブレムがセットされていて、SRXではさらに伝統の音叉マークが加わる。

■熱きユーザーが 共鳴する「作り込み」

コンセプトに忠実になることのむつかしさを克服したからこそSRXは多くの支持を受けてベストセラーとなった。そしてXVは熱成に熟成を重ねる手法で高い完成度と人気を得ている。

こうした「作り込み」を理解できるユーザー層は単なる流行ではなく、生活の一部としてモーターサイクルをとらえている。そういった賢明なるユーザーは遠い将来におよんでも、良きお客さまであり続け、結果としてはお店の財産ともなるべき人々たちである。

こういった人たちがひとりでも多くなることを望んでいるのが、SRXやXVの開発を手掛けてきたヤマハの技術陣である。乗ることの喜び、持つことの喜び、それは味わうこととの喜びであり、「作り込み」がその奥深さを決定する。「作り込み」にみるヤマハらしきとは、まさに、味わいを求めていることを意味し、ヤマハの技術者自身が味わいを求めてモーターサイクルを創造しているのだ、と結論づけることができる。

（山本一成）

⑥

フォロー・ザ・トレンド
仕掛人が語る、若者たちはいま



(プロフィール)早稲田大学政治経済学部を卒業後、電通映画社に入社。CM演出室に配属され、約300本のCMを演出。ナショナル・トランザム「高見山」、大日本除菌菊「キンチョール」「研ナオコのトンデレラ・シンデレラ」などでACC賞ほか多数受賞。1979年よりフリーとなり、富士フィルム・カラープリン「それなりに」やヤマハ・タウニー「いいなあ、アレ」などのCM演出を手がけるとともに、数かず「それなりに」やヤマハ・タウニー「マザース」設立。1982年、CM制作プロダクション「マザース」を現在のCM演出のほか、テレビ番組「天才/たけしの元気が出るテレビ」に企画・出演のほか、「週刊文春」「広告批評」等でエッセイ等も連載するなど、電波および活字媒体を舞台に活躍。1948年、東京生まれ。

CM演出家 川崎徹氏

面白いから笑うのではなく
彼らが笑うから面白いのです

わけですが、当時は6ヶ月ぐらいいはもちまして、一つの言葉が。今では2ヶ月ぐらいいは。はやりすたりのサイクルが大変早くなっています。

下手すると、はやる前に終わったりしますからね。他の人が何か言っていると、わざと無視するヤツがいたりして」

なぜそんなにサイクルが短くなったのでしょうか。

「みんな心配なんでしょう。いつでも新しいものを持っていないと不安というか。それとつかえひっかえするんだと思います」

手さぐりの制作現場

すると、次から次へ新しいものを作っていくかなくちゃならないわけですね。

「そうです。しかもこの世界で旗を振っている、つまり先端に立つて仕事をしているのは、5、6人ですから、しんどいですよ。5、6人とはいくけど、事実上は3人ですからね。」

若い人たちが出てくればいいんですが、ちょっと芽が出て後が続きます。というのはこの仕事はまわりの評価がすべてですから、他人があれこれ言う、そのとき自分が考えたものを平気で直せるかどうか。そこでたいいていのは抵抗を感じます。直せないんです。それで作品主義になっちゃ。作家になるわけですから、自分というものをを出して。匿名性で残したから生き残ったのだと思います。

「ヒット作というのは作っている時からわかるものですか。」

「そんなことはありません。なんとなくいけそうかなという程度です。だいたい、笑いかかユーモアなどというのは十人十色、人に

よって違いますからね。

しかも面白いと思う、その幅は大変狭いものだと思います。僕が面白いと考えたことでも、隣の人は全くなにも感じないことだってあります。だから、本言うとちつとも面白いとは思わないのに、みんなが笑っているから笑ってしまおうという人もいるんじゃないんですか。」

「今、面白いことって何でしょうか。」

「元気になるテレビ」をやって思うんですが、面白いことをやったら笑うんじゃないなくて、彼らが、若者が笑ったものが面白いものなんです。いろいろやってみてどれかがうけた。するとそれが面白いってことになるのです。

たけし(ビートたけし)なんかもそうですよ。これは絶対うけるって思ってやってみるわけじゃないんです。やってみてドツときたら、ああこれが面白いんだなって……」

「そういうやり方はロスが大きいんじゃないですか。やってみてダメっていうこともあるんじゃないから。」

「ロスには仕方ありません。これが面白いって出したってうけないんですから。そうやって自分中心にやっているとつじつまが合いません。タレントなどでも、自分の笑いにこだわるようになるとうけなくなるでしょ。それで消えていく人が多いでしょう。」

「はつきり言えば自信がないということですか。この点は劇作家も同じだと思います。ですから、自分が面白いと思うものと、他人——特に若い視聴者が面白いものと、両方に引かれて股栗きにあっているような気がします。かといって全くあてずっぽうというわけ



日曜のゴールデンタイムに高視聴率を上げる日本テレビの「天才/たけしの元気が出るテレビ」で、タレント顔負けのキャラクターぶりを発揮する川崎徹氏(前列左端)



はありませぬ。コマースシャルの場合は一つの仕事に対して何本も案を出しますが、3本に1本はうけるものが入ってなくちゃいけません。ロスしようがないけど、確率は3分の1。それが実力だと思えます」

「いいなあ、あれ」のタウニーからも6年もたちましたが、コマースシャルの世界は何か変わったのでしょうか。

「あの年はフジカラー、キンチョール、ヤマハと続いた年でしたね。僕の初めてのヒットで、「それなりに……」などの流行語を生んだ

昭和55年のフジカラーのCM——岸本加世子と樹木希林の「それなりに写ります」や、ナベサダが出演したヤマハ・タウニーの「いいなあ、アレ」以来、次々にヒットを飛ばし、テレビコマースシャルに新しい風を吹きこんだCM演出家の川崎徹さん。

「それなりにいいんじゃないですか」「いかにも一般大衆の好みそう……」等の流行語を生み出す間に一般の視聴者にもその存在を意識されるようになりました。最近「天才/たけしの元気が出るテレビ」に出演、若者を相手にオモシロイ仕掛けを作り出したのも、CMディレクターとして、テレビ番組制作者として、またタレントとして「時代」を見つめる川崎徹さんの大きな眼には、一体なにが映っているのでしょうか。

若者はキラライ

「ずっと若い人を見ていらつしやつたと思
いますので、若者観をうかがいたいのですが。
「あいにくと若い人には興味がありません。
年寄りには顔にシワがよつてゐるだけで好
きなんです。若いヤツは甘い顔してるとつけ
上がるでしょ。キラライですね。自分が若いと
きからそうです。」

だから僕が作ったコマージュナル、たとえば
サントリーの生樽にしても日刊アルバイトニ
ュースにしても若い人はあまり登場しません。
それに若い人だけを対象にする内容でもない
です。むしろ、対象を絞りすぎたと思つた
ら直すようにしています。子供から年寄りま
で幅広くね。

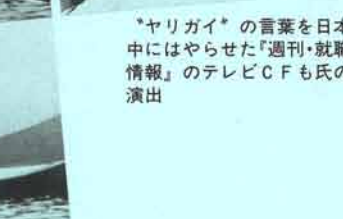
しかしどんなコマージュナルでも、若い人に
受け入れられることが成功の尺度になってい
ますから、若い人に向けて作ることは作るん
です。作るけれど、そのときに若いヤツを見て
作ると「ア、こつち見てるな」と思つてつけ
上がるんですよ、若いヤツは。で、バカにさ
れるからうけない、という結果になります。
若いヤツがわかんなくて不安になるような
ものを出すこと。「ナニ」って思わせたいほう

キラライのです。(笑)
矛盾してますけど、若いヤツを無視しなが
ら、うけることをねらっているんです」
若者が集まる所に出かけたりはしないの
ですか。

「しません。キラライですから(笑)。彼らは情報
とヒマはいっぱい持っているでしょ、どこにで
もいるんですねエ。お金がないからさすがに
料金の高いところへは行かないようですよ(笑)。
。

私は芝居が好きでよく出掛けますし、映画
もよく見えています。芝居に行くとき若い人も
いますが、きつと見方は違うんだろ(笑)と思いま
す。私とは違うところを面白いと思つてゐるん
だろ(笑)うなつて」

芝居などは仕事に関係しますか。
「仕事といえは仕事ですね。はつきりした
形にはならないけれど、見続けていると体の
中に何か蓄積されていきますから。
雑誌もよく読みます。これは知識を得るた
めではなく、同じことをやらないために読む
んです。コマージュナルのインパクトは今まで
なかったものを出すところに生まれますか
ら、今はやっているもの、誰かがやったもの



日本就職の週刊「ヤリガイ」の言葉が、日本のテレビ情報の中核を担っている。

「笑い」の世界に焦点が
あてられがちだが、氏は
その作品の中にはこんな
ビジュアル重視のテレビ
ＣＦもある(「第一製
薬」パテックス)



僕はそのような苦手でですね。でもなんとか
してついでにかななくちやいけなわけです。
たとえば僕が何か面白いことを考える、考え
るとどうしても力が入っちゃう、するとでき
たものが重くなるんですね。重さは排除して
いかななくちやいけません。
評論家の吉本隆明さんに「ちよつと重くな
つてね」と言われましたけど、それは本

透明感を大切に

キラライな若者のことで申しわけないん
です(笑)、若い人の好みについてどう思われま
すか。

「うーん、困りましたね(笑)。まあ、笑いについ
ていえば、単純に笑えるものが好まれていま
すね。意味のない笑いと云いますか、透明感
のあるものですね。」

は避ける必要があるのです。

テレビは好きなものだけ、「オレたちひょう
きん族」や「NHK特集」は見ます。コマ
ージュナルは全くダメ。選んでいて役に立ちませ
ん。今のコマージュナルは後もどりにして、
参考になるようなのはありません」



すでに「広告批評」では「川崎徹・全仕事」
なる単行本も発刊され、CM関係者間でバイ
ブルとしてもはやされてもいる

当にあたつていっているんです。
単純な笑いつていうのは、たとえばとんね
るず。意味のない意味つていうんですか、そ
れだけつていう笑いですね。

とんねるずも何年かたては重くなるんでし
ょう。それはその人にとってはしょうがない
ことです。しかしなんとかななくちやいけな
いんです。生きていくためには」

川崎さんのコマージュナルは言葉の面白さ
でヒットしたのが多いようですが、これから
もその方向は変わりませんか。

「ええ、言葉は好きですから。ただ、以前は
人にはそれぞれ言葉の性感帯があつて、感じ
る部分が違うから自分が感じる部分でやるし
かないと思つていたんだけど、最近はずよつ
と変わってきましたね。」

自分は背中がいちばん感じるし、隣の人は
ワキしか感じないみたいだつていうとき、以
前は背中をもんだり押ししたりしていたわけ
です。今はワキも攻めてみようと思つて。他人の
性感帯にも入りこんでみようつてことですね。

何がどう変わつていったつて言葉がなくな
るわけではないですから、手をかえ品をかえ
言葉も扱つていくことになりました。

もし行きつまったとすれば、手をかえ品を
かえの努力が足りないということでしょう」

「ヤリガイ」なんかがそうですか。
「いや、あれは他の人が作ったものでして。
具を使つて考えてくれたつて言われてやつた
んです(笑)。あれ、僕が考えたのとは違
うところだつていっているんですよ。それに具とい
う飛び道具を使つてゐるんで、ああいうのあん
まり好きじゃない。でもうけたら勝ちですか
らね。もうすつかり、川崎徹のヤリガイ」に
なつちやつて(笑)。

これからは、人がやりそうところで
さつきの性感帯の話でいえば、みんなが感じ
る胸をいじりながら力業を仕掛けてみたい
ですね。誰もが好むぬるま湯のオーソドキシイ、
そこをやらないと生きていけないんじゃない
かと感じています」

ユーザーのバイブルとして読まれ、市場のオピニオンをリードしている2輪専門誌。販売店さんにとっても生きた情報満載の2輪専門誌の中から直接、間接にご商売にお役立ていただけそうな記事をピックアップし、毎月お届けしています。

くちコミ起爆剤



話題のニューモデルの試乗インプレッションが、にぎやかに誌面を飾る5月発売の2輪専門誌から、まずYSR50の記事をご紹介しましょう。これは新発売に先かけて4月22日にスポーツランドSUGO・カートコースで開催した「2輪専門誌試乗会」のレポート——

「女性アイドルタレントのようなバイク」(記事1)

「GPレーサー気分なのだ」(記事2)

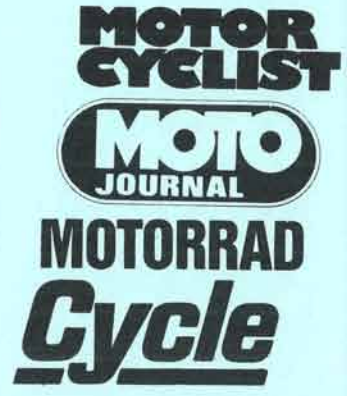
という評価を集め、レース気分を大いにもり上げています。一方、新登場FZR400の試乗記をいち早くとり上げた「別冊モーターサイクリスト」は——

「間違いなくクラス最速」(記事3)

とその結論を紹介。また、スクーター関係では、「ヤングマシン」'86モデル特集で、登場まもないミニントが——

「キューブよりさらに女性向き」(記事4)

と紹介されています。



記事1 乗りこなす楽しさ、さわる楽しさ、そして手に入れる3拍子の楽しさを持ったYSR50は、まるでかわいい女性アイドルタレントのようなバイクだぞ。

もちろん、カワイイだけじゃないぜ。SRX4/6とTZR250の開発スタッフを足して2で割ったような開発スタッフだけに、本物指向のクオリティと走りの良さもピカイチ。改良リミッターの採用で、ノーマルのまま半クラ・スタートだってできちゃうのだ。(中略)「スクーターには負けたくない」という開発スタッフの熱意がヒシヒシ感じられちゃうね。(モトチャンプ6月号)

記事2 エンジンこそ7PS/8800回転とスクーターなみのスペックではないが、それを思いきり使いきって最高の気分にはたれるという点ではスクーターが逆立ちしたって及ばない。GPレーサー気分なのだ。

それはなぜか？最大の理由として、ハンダオンがキマリやすいように多少アンダーステア気味に設定した安定感のあるハンドリング。(中略)ガッチリしたフレームはヨレる気配もないし、適度な倒しこみの抵抗感が実にスムーズなラインをトレースさせる。この安定感は250cc以上のハンドリングのいいバイクそのもののライボジも自然だから50ccに乗っているという意識はなくなってしまう。(ベストバイク6月号)

記事3 FZR400は間違いなくこのクラス最速の一台である。それは単に最高速、加速といったものではなく、走る、止まる、曲がるという3要素すべてにわたるものである。さらに、ヤマハレーサーレプリカの伝統ともいえるダイレクトな、硬質なファイリングも、これまでのモデルにも増して備えている。もちろん、ツリーングベースでの乗りやすさも備えている(別冊モーターサイクリスト6月号)

記事4 チャンプ/外観は割とおとなしめだが、やはり「走り」を追求したスポーツスクーター。羊の皮をかぶったオオカミといったところ。ミニント/キューブよりさらに女性向き。0・3PSのパワーをプラスされて信頼性をアップ。スタイリングはキューブよりさらにまああるく、優しくないながらも、走らせてみると扱い易さはそのままに、登坂カパワー感がアップ。ちょっとスポーティにも走れてしまいそう。(ヤングマシン6月号)

GOGGLE
モトチャンプ
カンクマシン

MOTOR CYCLIST
モーターサイクリスト
Best Bike
ベストバイク
RIDERS CLUB
オートバイ

情報スクランブル

お忙しい販売店さんのための情報アンテナ

BOOKS

●体験に知識をプラスして売上げ安定
『儲かるバイクショップ経営法』

どんな商品でも、その商売を営むために必要な基本、ノウハウが存在します。これをシッカリと把握しておけば初めての人でもある程度の商売は可能なのですが、国内の小売業を見るとそのほとんどは経験を積み重ねて自分で体得するか、徒弟制度的な修業で教えてもらっているのが現状のようです。この本は二輪車販売に必要なノウハウを、著者の豊富な経験と科学的な分析によって解りやすくまとめたもの。とくに新しく二輪車販売に携わるみなさんにとっては、必読の一冊といえるでしょう。

片桐正三著 ビジネス出版/¥1200



●ツーリングマップ&データ完全ガイド
『タンクバックシリーズ』

ツーリングにはツーリング専用の地図というわけで、バイクのタンクバックにピッタリと納まるスケレモノのツーリングマップが発売されました。名所や道路状況、宿泊施設なども詳しく紹介されているので、ツーリング計画の参考にもピッタリです。『お客さまのツーリングプランに、もっと役立つアドバイスをしたい』とお考えの店主さんには必携品

のひとつです。

CBSソニー出版/¥980 北海道 東北、信州、関東、九州の5シリーズが発売中。



WAVE MUSIC SENSOR

うっとおしい雨の季節です。せめて店内ぐらいいは明るいBGMで演出し、お客さまをさわやかな気持ちでお迎えしましょう。情報源は東京・六本木のニューメディアスペース、「ウェーブ」です。

●乗りのニューウェーブ

『In Visible Silence』
(インビジブルサイレンス)



ニューウェーブを引っつけて結成時から話題を集めたアートオブノイズのニューアルバムです。ハードからポップな感じへと変身したサウンドはノリも良く、とくにデュラン・エディのギターをフィチャールした「ビーターガン」は聞きものです。

●なかなかの見つけ物

『Alone/But Never Alone』
(アローン/バットネバーアローン)

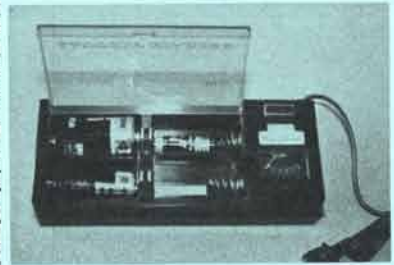
ラリー・カールトン久びきのアルバムは、いつものフュージョンサウンドとはちよつと

TOOL & ACCESSORIS

●普通の乾電池が5回もよみがえる
『マジックチャージャー』

●充電式電池
以外に充電できない」という定説をくつがえして、普段使っている乾電池も安全に充電してしまいう充電器が出現しました。単1から単3まで充電OKで、蓄電量がひと目でわかるテストメーターも装備。乾電池なら5回まで、充電式電池なら何回でも回復できるという超経済的な新製品です。

お問合せ メディック・インク・ナショナル 03(987)0206/¥4800



●働き者のための無精ツール
『ブックストッパー』

両手に工具を持って、サービスマニアルを見ながらの修理や整備。なかなか思ったページに本を開いておけなくて、イライラすることってありますよね。そんな苦勞を一発で解消するのがこの便利もの。オモリ付きな

毛色が変わって、アコースティックなソフトな仕上がり、この季節のBGMとしては最適です。



で伝票をクリップしておいたり、ちよつとしたプリンチンがわりにも使えます。

お問合せ 金沢スポーツ株式会社 03(293)0241/¥6600



EVENT

●日本初の本格的エンデュランスレース

『第1回 オフロードフェスティバル in 赤倉』

新潟県の妙高高原赤倉温泉に作られた国内最長距離・約15kmのコースを走り続けるオフロード耐久レースです。内容は初心者や女性ライダーのための4時間耐久と、夜間走行もある国内初の12時間耐久。オフロードブーム再燃といわれている昨今だけに、興味深い一大イベントです。

開催日/6月14日(土)、15日(日) お問合せ/OFA大会本部 03(713)9661

ことしもシーズン開幕を告げて バイクビレッジ・イン・箱根 開催

〔ヤマハ東京機〕ツーリングシーズンの本格的な到来を告げる春のYES Sバイクビレッジが、さる4月12-13日、箱根小涌園で開催されました。「YES S '86バイクビレッジ」と銘打った今回の催しには約200名のYES Sスタッフが愛車を駆って参加。会場では、「FZR400」開発スタッフとの交歓、モトクロス国際A級ライダー吉原朋正選手を囲んでのパーティ、そしてゲーム大会やバイク談議……などが賑やかに繰り広げられ、参加者全員がたつぷりメニユーを満喫。翌日は、記念撮影後、またの再会を約束して各グループ、それぞれに箱根のワインディングロードを楽しみながら帰路につきました。



今年で3年目を迎えて一段と盛りあがる「バイクビレッジ・イン・箱根」。

関西でも初の YES Sバイクビレッジ開催



〔ヤマハ関西機〕4月26-27日、ことしのゴールデンウィーク最初の休日を利用して、関西地区で最初のバイクビレッジ「YES Sバイクビレッジ・イン・合歓の郷」が、三重県志摩のヤマハリゾート・合歓の郷に80名のYES Sスタッフを集めて開かれました。

関西各地からツーリングを楽しんで合歓の郷に集合したスタッフのみなさんは、ゲストのヤマハラライダー長谷川嘉久、片山信二両選手を囲んでのパーティやゲーム大会、ディスコ大会などにぎやかに親睦を深めました。

また翌日は、話題の50ccスポーツY S R 50の試乗会やレーシングカーの体験走行を楽しみ、YES Sバイクビレッジの2日間を満喫されていきました。



関西初のYES Sバイクビレッジに、80名のスタッフが集合

120名のYESSSスタッフが フィスコを快走!

〔ヤマハ東京㈱・神奈川支店〕神奈川県湘南地区のYESSSショップさんが組織したYESSS湘南スポーツクラブでは、4月14日、月曜日、クラブ3回目のイベントとして、湘南スポーツフェスティバル・YRSサーキットランを富士スピードウェイで開催しました。

第3回目のクラブイベントとなったこの日は月曜日にもかかわらず、17時から43才まで、女性ライダー16名も含めて120名のYESSSスタッフがフィスコに集合、多くは会社の休暇をとって参加したヤングサラリーマン。

また、集合時間が午後だったのににもかかわらず、朝早くからゲート前に集まるグループの姿も見受けられるほどの人気ぶり。車検、コース説明など徹底した走行前の安全指導をうけた後、インストラクターの先導で2時間たっぷり、サーキット走行を楽しんでいました。



走行時間はたっぷり2時間。中には200キロ以上も走ったグループもあって、終了後お客さまからは一様に満足の声が上がっていた



女性ライダーのための ミニYRS定期開催へ

〔ヤマハ東京㈱・神奈川支店〕もうひとつ神奈川からの話題です。ここ数年、増加一途の女性ライダー。これにつれて彼女たちのバイクに対する知識欲も飛躍的に向上し、中には男性ライダー顔負けのマニアも現われるほどです。

しかし、これとは裏腹に、せっか

く念願の女性ライダーの仲間入りをしても運転技術の未熟さや、遊ぶ機会の少なさから、バイク本来の楽しさを知ることができずに、バイクから離れてしまう女性も少なくはありません。

こうしたことを防ごうと、ヤマハ東京㈱神奈川支店では、平塚市の荒

井自動車学校・花水校を会場に、初の女性のための「ミニYRS」の年間を通しての開催を企画。その第一回が5月10日、22名の女性ライダーを集めて開かれました。

第一回とあって、やや難易度の低いコースとはいえないものの、女性ライダーのみなさんは悪戦苦闘。それでも指導員の厳しい注意や転倒にもめげず、最後の実力診断では、全員が全セクションを無事クリア。驚くほどの上達ぶりを見せ、さらにレベルアップした内容となる、次回に期待をふくらませていました。



22名の女性ライダーが参加した「女性のためのミニYRS」。

終了まじかになると、走りもみちがえるほど向上



女性ライダーの知識欲は、おどろくほど旺盛。インストラクターの話に耳をかたむける表情も真剣そのもの

“オフロードYRS” オンロードユーザーからも人気呼ぶ



半数以上はオンロードモデル・ユーザーという、(株)山本商会さんの「オフロードYRS」。

〔ヤマハ東京株神奈川支店〕ビギナーや女性など、オフロード未経験の人たちにも手軽にオフロードの楽しさを知っていただくようカリキュラムを一新した「オフロードYRS」が、全国各地で人気を呼んでいます。神奈川県鎌倉市と藤沢市に3店舗を構えてご商売する(株)山本商会山本俊彦社長)さんでも4月13日に静



国際A級ライダーの模範走行で、まずオフロードの楽しさをアピール

優雅なシルバーライフの足“サン・クラシック”

ヤマハ・ゴルフカーをデラックスなコミュニティカーに改造した。その名も“サン・クラシック”が、いまアメリカで話題を呼んでいます。アメリカでは近年、優雅な老後の生活のために住いにゴルフ場などを併設したクローズド・コミュニティが、各地に建設さ

れていますが、このサン・クラシックは、そんなコミュニティ内のトランスポーターとして開発されたもの。そして、その活躍ぶりがタイム、トゥデイ、ロサンゼルスタイムズなどアメリカのメジャー雑誌をにぎわしています。

岡県の自衛隊北富士演習場に60名のお客さまを集めて、お店主催の「オフロードYRS」を開催しました。この日のプログラムは、午前中にモトクロス国際A級・石井正美選手による模範走行と質疑応答。パーベキューの昼食をはさんで午後は、DT、XTからYZまで用意した試乗用オフロードモデルに乗って自由に楽しんでいただくというもの。「オートバイのバランスは、オンもオフも同じ。基本をしっかりと身につけてもらうために、今回はお客さまに思い切り転んでもらい、テクニクを学んでもらいたい」とは山本

社長の話ですが、じつはこの日の参加者の半数以上はオンロードモデルのお客さま。そんなみなさんからは「今年からロードレースを始めたんですが、オフロードは今日が初めて、とってもいい勉強になりました(川越寿さん・17才) などという声も聞かれるなど、参加されたみなさんは、それぞれにオフロードのダイゴ味を満喫されていました。このようにTZR250やFZ250フェーザーなどオンロード派のお客さまにも、オフロードの楽しさを広げて人気を呼んでいる、それが新しい「オフロードYRS」です。

Luxury on the Links

Golf carts were conceived as simple, functional machines that would ferry players around courses that often stretched for three or four sinuous miles. Now, however, more and more linksters prefer to ride in style. Japan's Yamaha, and more linksters prefer to ride in style. Japan's Yamaha, and more linksters prefer to ride in style. Japan's Yamaha, and more linksters prefer to ride in style. Japan's Yamaha, and more linksters prefer to ride in style. Japan's Yamaha, and more linksters prefer to ride in style. Japan's Yamaha, and more linksters prefer to ride in style. Japan's Yamaha, and more linksters prefer to ride in style. Japan's Yamaha, and more linksters prefer to retire to retirement communities that allow people to drive golf carts on public streets. In Sun City West, Ariz., Yamaha Dealer Ned Lee says, carts have become a major mode of transportation. He adds, "Here, parking lots have spaces marked just for golf carts."

Powered by a small gasoline engine that gets as much as 24 m.p.g., the Sun Classic is geared to travel at 13 m.p.h. but can be souped up to hit 30. Jim Hakeman, 66, of Sun City West, uses his new Sun Classic for shopping expeditions and

visits to friends' condominiums. Says he: "It's a beautiful machine. It's the first golf cart that doesn't look like one." It is fast, becoming an object of envy. Says Larry Koch, 52, who lives near the Round Hill Country Club in Alamo, Calif.: "The Sun Classic is very stylish. A dozen guys have already bought one after seeing mine."



Yamaha's "golf car" handles a roadway as well as a fairway

全国4会場でのベニー2000店さんが参加 FZR400販売店とま試乗会開催

86年スポーツバイク商戦の最重要商品「FZR400」。その話題いっばいの商品性を、まず最初に販売店のみなさまに、しっかりと確認していただくとうと、FZR400体験試乗会が開かれました。

5月11日の札幌を皮切りに、スポーツランドSUGO、袋井ヤマハコース、西日本サーキットの4会場で開催されたこの試乗会には、全国でのべ1200店を超える販売店さんが参加。パワフルなジェネシス・フーリングやアルミデルタボックスフレームの生みだすすぐれた操安性を、販売店さんそれぞれの手で体験。夏のスポーツバイク商戦に向けて、大いに意欲を高められていました。なお、スポーツランドSUGOにおける販売店さんの試乗インプレッションを、10ページにご紹介しました。



GWの家族づれの人気を呼んだ ヤマハバイク・コレクション

〔ヤマハ中部機〕三重県志摩のヤマハリゾート・合歡の郷では、4月26日から5月5日のゴールデンウィーク中「YOU・遊カーニバル」を開催、1万5千人にのぼるヤングや家族づれがつかけて、もりだくさんの催しを楽しんでいました。

そんな中で合歡の郷を訪れたお客さまの人気を呼んでいたのが、ヤマハバイク・コレクション。FZX750、SRX400などとともに平選手が83年に全日本V1を決めたYZR500なども展示され話題を集めていました。



お客様のためのTZR250 メカニズム教室、好評!

〔北海道ヤマハ機〕TZR250購入のお客さまと予約中のお客さまを対象にした「TZR250メカニズム教室」が、3月18日から4月19日のひと月間に、北海道内6店のYSP店さんで開催されました。

これは、お客さまサービスを通じてお客さまの固定化を促進しようというYSP統一企画によるもの。バイクシーズン直前、また雪の残る時期の開催でしたが、6会場でのべ45名のお客さまが参加（受講料1500円）しました。

TZR250ビデオ放映、商品説明・メカニズム解説、YRS紹介など、3時間に行わたるこのTZR250メカ教室、参加されたお客さまは、とくに実物のエンジンを使ってのメカ解説やアルミデルタボックスフレーム、また使用オイル等の説明に大きな関心を寄せていました。開催されたYSP店さんかも「今後はオフロードモデルの教室も……」という声も出ている、このメカ教室、これからはYSP統一企画として一層の充実がはかれることになっています。



■世界選手権ロードレースシリーズ 平、緒戦は惜しくもリタイヤ

250cc第1戦はラバードが制覇!

例年よりもひと月おくられて5月14日、スペインのハラマサーキットで'86世界選手権ロードレースシリーズが開幕した。

待望のオープニングレースとあって、10万人にのぼる大観衆を集めて行なわれたスペインGP。注目の250ccクラスでは、世界GPフル挑戦の平忠彦が、チームメイトのM・ウイマー（西ドイツ）について予選2番目のタイムをマークして期待を

集めたが、決勝のスタートで後続車に追突され足の指を骨折して無念のリタイアに終ってしまった。しかし、このレースは、同じYZR250を駆るベネズエラのC・ラバードが、5周目に首位に立つと、以後はA・マンクらの追撃を振り切って優勝、幸先きよいい勝利をマークした。また、YZR250で一分31秒05の最高ラップをマークしたウイマーは4位に入賞した。

一方、ヤマハマルボロチーム、ノートチーム、チームラッキーストライク・ロバートの3チームから5台のYZR500が出場して話題を集める500ccクラスでは、タイトル奪還をめざすロソンが2位、ロバートチームのポールドウィン、モロガが3、4位さらにソノートのサロンが5位、またマツケルナが7位と全員が上位入賞を果たして、まずまずのスタートを切った。

■全日本選手権モトクロスシリーズ 快調、光安+YZM250 今季2度目のパーフェクト・ウィン!

―大会、1ヒートごとに猛烈なデッドヒートの連続で、昨年までとは様相一変の全日本選手権モトクロス、その立役者となっているのがヤマハワークスマシンYZM250を駆る光安鉄美だ。

4月6日の第2戦・中国大会で、久びのパーフェクト・ウィンを達成した光安とYZM250は、つづく第3戦・九州大会（4月20日）でも第1ヒート2位、第2ヒート優勝と絶好調。さらに5月10・11日、鈴鹿サーキットに3万人の観衆を集めて行なわれた第5戦でも、完璧な走

りで両ヒートを制覇、今季の10ヒート中5勝目をマークして、もちろんランキングでも首位に立った。とくにこの第5戦での、両ヒートにわたる光安とS・マーチのバトルは熾烈を極めたが、第2ヒート、最後の1周で観衆の大声援を浴びながらマーチンをパスした光安の走りは、今季の充実ぶりを何よりも立証していた。また、A級125ccクラスでも、YZ125改の1年生・川崎智之が好調。第5戦でも両ヒート2位と健闘している。



元チャンピオンの実力で'86年第1勝をものにしたC・ラバードとYZR250



アクシデントで第1戦はリタイヤの平。しかし予選2位の實力は、はやくもヨーロッパのファンに平とYZR250を強烈に印象づけた



シリーズ中盤戦で2度目のパーフェクト・ウィンを、いよいよ波にのって来た光安とYZM250



■250cc級世界選手権モトクロスシリーズ J・ピモンド首位快走ノヤマハ4GPを連続制覇

250cc級世界選手権モトクロスシリーズは、5月11日のイタリアGPで序盤の4戦を終了した。開幕から3戦まで連続して総合優勝をつづけていたフランスのJ・ピモンドが、この日は、第2ヒート2位の総合4

位にとどまったものの、地元イタリアのM・ファントンが優勝。これでこのシリーズ、ヤマハYZ125は、4GP連続をつづけている。もちろん、ランキングでは、ピモンドが首位。2位との差を30ポイントと開いた。

■全日本選手権トライアルシリーズ 伊藤敦志、緒戦は3位



4月13日、徳島県の吉野川河川敷で行なわれた四国トライアル大会で'86全日本選手権トライアルシリーズが開幕した。
今年はじめFIMトライアル世界選手権に3戦にわたり出場、貴重な経験を積んできた伊藤敦志とTY250Rは、6時間で15セクションを3ラップするこの第1戦で減点62、クリート19、第3位で'86シーズンへのスタートを切った。



■全日本選手権ロードレースシリーズ

長谷川、片山(A250)上野、平塚(F1) 1大会で2クラス、ヤマハ1・2勝利!

'86全日本選手権ロードレースシリーズは、5月11日の筑波大会で5戦を終了した。シリーズも中盤戦に突入、各クラスに一段と熱のこもったレースが展開されている中で、とくにヤマハパワーの快進撃に注目が集まっているのが、国際A級250ccと同F1の2クラスだ。
4月20日、4万2千人の観衆を集めて行なわれた第4戦・鈴鹿大会では、A級250ccで水谷・VツインYZR250を駆る長谷川嘉久、片山信二のヤマハコンビが、前の第3戦SUGOにつづいてワン・ツーフイニッシュ。またF1クラスでも、YZF750を駆る上野真一、平塚庄治がワン・ツー独占。出場台数の少ない500ccクラスに代わって、事実上この日のメインレースとなったこの2クラスでのヤマハのダブル・ワン・ツー勝利が、最大の話題を呼んだものであった。

5月11日、つづく第5戦・筑波サーキットでも長谷川、片山の両選手は予選し、3位と好調。しかし、長谷川はスタートで出遅れ、猛烈な追い上げをみせたものの3位。片山は一周目の第1コーナーで転倒。期待の3連続、ワン・ツー勝利はならなかった。
5戦を終了してランキングでは、A250ccで長谷川が、またF1でも上野がトップ、ともに初のタイトル獲得に意欲を燃やしている。また、A級500ccクラスでは平穴場の後を受けて大ベテラン河崎裕之の健闘が注目されているが、これと並んで注目されているのが、弱冠19才、A級一年生の藤原儀彦(MS棍ヶ谷レーシング)。「85YZR500を駆る藤原は第5戦でスタート後、八代、木下につづいて3番手をキープ大器の片鱗を示したがトラブルで惜しくもリタイア。後半戦への期待を高めている。

■全日本カート選手権シリーズ

第2戦・FKクラス優勝 西地域AIIクラスは、ヤマハ3連勝

'86全日本カート選手権シリーズは、今シーズンも最高峰FK(135cc)クラスが東西統一で、またAIIとAI(いずれも100cc)が、東西のシリーズに分かれて、それぞれ7戦が組まれている。このうち、5月10日、11日の両日岐阜県武儀郡の津保川カートランドではFKクラス第2戦、AII、AIの西地域第3戦が行なわれた。この注目目のFKクラスでは、ヤマハRF1+KTI、35のヤマハワークス辻成哉、(写真)が、すばらしい追い上げで優勝。AIIクラスでは、ヤマハRK1+KTI00AXの樋口信之が、第1戦にひきつづき2勝目をマーク。ヤマハワークスの松倉輝明の第2戦優勝とあわせて、ヤマハはこのクラス3連勝をつづけている。



■JAF全日本F2選手権シリーズ ヤマハOX66、ただ今V3! 第3戦は、1〜3位独占

3月のスズカ・ビッグ2&4レースで開幕した'86JAF全日本F2選手権シリーズは、その後4月19・20日の富士スピードウェイで第2戦、5月11日の西日本サーキットで第3戦を終了した。
第1戦に松本恵二のドライビングで優勝したヤマハOX66は、その後も快調で、第2戦のフィスコでは、OX66の開発ドライバーG・リースが、先行する中嶋、星野を抜き去って念願の初優勝。さらに、第3戦では、松本恵二が、5バルブ・V6.0

西日本サーキットのテクニカルコースに、OX66のポテンシャルを100%発揮して今季2勝目を上げた松本とOX66+マーチ86J



3戦目ではやくも2勝の松本恵二

OX66のポテンシャルをフルに発揮してポール・ツー・フィニッシュの圧勝。2位にE・エリグ、3位にG・リースが入り、OX66が初の上位独占を果たした。この結果、OX66はもつ全日本F2で3連勝、チャンピオン争いでも松本が大きくリードしている。

5月のレーシング・カレンダー

- 6月1日 ◆全日本トライアル③・関東
- ◆250ccモトクロス⑥・ユーゴ
- ◆125ccモトクロス⑤・スペイン
- 6月8日 ◆全日本ロードレース⑦・鈴鹿200キロ
- ◆全日本モトクロス⑤・東北
- ◆世界GPロードレース④・オーストラリア
- ◆500ccモトクロス⑥・西ドイツ
- ◆250ccモトクロス⑦・イギリス
- 6月15日 ◆世界GPロードレース⑤・ユーゴ
- ◆250ccモトクロス⑧・ベルギー
- 6月22日 ◆全日本カート西地域④・堺
- ◆500ccモトクロス⑦・カナダ
- 6月29日 ◆全日本トライアル④・中国
- ◆世界GPロードレース⑥・オランダ
- ◆500ccモトクロス⑧・アメリカ
- ◆250ccモトクロス⑨・スイス
- ◆125ccモトクロス⑦・北アイルランド*

●このページは、ヤマハ発動機各課から販売店のみなさまへの業務連絡です。さらに詳しくは、担当のセールスマン、各特約店、販売会社の営業技術課(サービス)、普及課セフティ/モータースポーツ、部品営業課(パーツ)までお問い合わせください。

SALES

この夏のスポーツバイク商戦は バイクフリーク'86・イン・サマーから!

6月7、8日の両日を中心に、全国のヤマハ販売会社・営業所では、夏のスポーツバイク展示試乗会「バイクフリーク'86・イン・サマー」を開催します。

人気沸とう中のニューモデル「FZR 400」から、「YSR 50」「FZX 750」ファラエブルーの「TZR 250」までヤングの話題を独占するヤマハのニューモデルに、見て、触って、乗っていただくスポーツバイクの一日。この夏のスポーツバイク商戦の盛りあがり、お店でもこの一大イベントをどうぞ有効にご活用ください。各地域別に、趣好をこらしたオリジナル・イベントも多数用意されています。

また、店頭における夏のスポーツバイクセールにお役立ていただくために「YSR 50店飾キット」「FZR 400店飾キット」も用意いたしました。バイクフリーク'86イン・サマーとの連動効果を高めるこれらのツールも、どうぞご活用ください。



お店のエクセル新発売セールにご活用ください 「エクセル・テレホンカード・コンテスト」

カラーページにもご紹介のとおり、6月1日から7月21日まで「エクセル」新発売を盛り上げるオープン懸賞「エクセル・テレホンカード・コンテスト」を実施します。これは10種類の平忠彦オリジナル・テレホンカードの人気投票を

行ない、応募者の中から抽選で、各1千名、合計1万名の方に、「エクセル賞」としてそのカードがプレゼントされるもの。またさらに「ヤマハ賞」として、CDプレーヤー(ヤマハCD-350)、多機能電話NTTハウディ・グラツイアが各50名に当たるダブルチャンスつきです。

そして、このテレホンカード・コンテストの告知も、販売店みなさまの店頭をはじめ、NTTのタイアップによる雑誌広告、6月8日と29日には全国紙による新聞広告(朝日、毎日、読売)と活版に展開してまいります。お店の「エクセル新発売セール」に、どうぞこの「エクセル・テレホンカード・コンテスト」をご活用ください。

SERVICE

ご利用ください『エクセル』サービスマニュアル

6月1日の新発売にあわせて、「エクセル」(CK50)のサービスマニュアルをご用意しました、どうぞご利用ください。

▼CK50(1Y1T) 28197-00
注文No.32110
価格2400円

■ヤマハ技術講習会修了者ご紹介



(2月27日～3月1日・2～2気筒・3日間コース(東京))

後列左から南ホリデーオート下山・渡辺一彦様、YSP三鷹・浜本良志様、松崎モーターズ・北内朗様、ライダーショップサイトウ・斉藤幸男様、前列左からRSSオートショップササキ・佐藤聡様、南八千代自転車商会・坪田弘幸様、福島輪業・山品昌也様



(2月19日～21日・レディーズ3日間コース(東京))

後列左から横浜SL・浦山かおる様、サイクルショップ一條・一條栄様、サイクル松村・松村陽子様、前列左からアクロス・加藤裕子様、バイクステーションオオガキ・大垣映子様、氏家オート・坂本トモ様



(3月4日～6日・4～DOHC・3日間コース(東京))

後列左からYSP高井戸・久保孝幸様、YSP札幌中央・加藤康弘様、佐藤モーターズ・佐藤政幸様、YSP習志野・岩橋邦彦様、前列左から土田オート・田村耕作様、南若月オート・長場哲男様、モトショップシロタ・片岡隆様、サイクルブラザタカハシ・鈴木芳王様



(3月5日～7日・2～2気筒・3日間コース(本社))

左からYSP沼津・遠藤明弘様、政野モーターズ・政野治男様、モトサロンナカクラ・長倉安志社長、YSP名古屋東・山田浩司様、第一オート商会・武市佳男様、川島モーターズ・高畑隆様、オートラマ磐田・大石克彦様

YRSサーキットランコース・インストラクター研修会ひらへ

サーキットの走行体験を通じてオンロードのライディング・テクニクの基本をマスターしていただくという、YRSサーキットランコースは、現在、HSP（北海道スピードパーク）、スポーツランドSUGO、筑波サーキット、袋井ヤマハコース、中山サーキット、西日本サーキットの6会場で、毎回大盛況のうちに開催されていますが、このYRSサーキットランコースで指導に当るインストラクター諸氏を宮城県のスポーツランドSUGOに集めて、4月16・17日の2日間にわたりインストラクター研修会がひらかれました。

今回の研修の中心は――

○インストラクターの心得
○指導テクニクの向上と指導レベルの確認――の2点。

出席したインストラクター諸氏は、日頃ロードレースやモトクロスで活躍中の現役ライダーやOBのみならず、それだけに各自の持ち味を生かしながら、YRSサーキットラン参加者に、いかにして二輪の楽しさと、一般道路における安全運転意識を植えつけていくかに、ポイントが置かれたわけでも、参加した23名のインストラクターのみならず、このテーマを中心に、座学に実技に2日間、熱のこもった研修をくりひろげ、ベストライダーの育成にさらに活発な活動の展開を誓っていました。



〔3月11日～14日・2～2気高・3日間コース(東京)〕
後列左から一國オート販売・富川龍男様、オートショップ中島・福井啓達様、YSP荒川・並木昇様、YSP行徳・森徳次様。前列左から行川オートプラザ・行川浩光様、小侯モータース・小侯明彦様、中央オートサイクル・久野哲男様、益子巧様



〔3月4日～6日・2～2気高・3日間コース(神戸)〕
後列左からサイクルショップタカイ・井上一博様、YSP大阪東・大西浩之様、サイクルショップウラカミ・植崎勝也様。前列左から浦西モータース・浦西修司様、バイクショップナカノ・垣見幸司様、ろくや東北店・鈴木一雄様

もっと利用いただいていますか?! ドレス・テレホン

世はあけてニューメディア時代、さまざまな業界でサービス向上のための新しい情報ネットワークづくりが急ピッチで進められています。ヤマハでも、NRTの電話公衆回線を利用した「DRESS(ドレス)テレホン」システムを全国ネットで開設し、より正確で、よりスピーディーな部品供給業務に活用していることは、販売店のみならずご承知のとおりです。

この「ドレステレホン」は、みなさまのお店とヤマハ販売会社・営業

所の間を電話回線でむすんだ電算オンラインシステムで、部品・用品の在庫状況が即座に確認でき、注文できる場所から、ヤマハの在庫をそのままお店の在庫として活用できるところが、最大の特徴です。

すでに、日本全国で400店にのぼる販売店さまに設置され、ご商売に活用されている「ドレステレホン」未導入のお店でも、ぜひ「ドレステレホン」の導入をご検討ください。お客さまへのより正確な部品用品供給情報の提供は、お店のイメージと



信頼を飛躍的に向上させるものです。*ドレステレホンについてはさらに詳しくは、ヤマハ営業所、販売会社の部品担当にお問合わせください。

6月のヤマハ提供テレビ番組

●オン・アンド・オフ

バイクとマリンスポーツという、ヤマハの総合的なスポーツレジャーの世界をより多くの人びとに紹介するユニークなスポーツレジャー情報番組。オン・アンド・オフ。

6月は6日、13日、27日の3回にわたって沖繩を舞台にしたマリンスポーツ情報特集、20日がバイク編の予定です。

なお、この「オン・アンド・オフ」は、テレビ東京、テレビ大阪、テレビ

ビ愛知、テレビせとうちの4局で、毎週金曜日、午後11時30分から15分間。テレビ静岡で毎週日曜日、午後5時15分から15分間放送されます。

●月曜ロードショー

毎週月曜午後9時2分から10時54分まで、TBS系テレビ全国24局ネットで放送している「月曜ロードショー」、6月の放送予定は次のとおりです。

▼6月2日「刑事コジャック・スベシャル」

懐かしのつるつる頭、テリィ・サバラス主演の刑事ドラマ

▼6月9日「スローなキにしてくれ」

古尾谷雅人、浅野温子主演、乾いたファイリリングの青春シネマ(放送時間30分延長)

▼6月16日「クジヨー」

ホラー小説の王様ステイブン・キング原作の恐怖映画

▼6月23日「喜びも悲しみも幾年月」

灯台守の夫婦愛を木下恵介が、佐田啓二、高峰秀子主演でみごとに描いた日本映画の名作

▼6月30日「デビルスピーク」

ある日突然、悪魔の超能力を身につけたいじめられっ子の凄惨な復讐

新しいレーシングライフの提案

KART

一般的なモーターススポーツツプームの高まりの中で、レーシングカートが再び注目を集め愛好者を増やしています。

しかし、まだまだ「レーシングカートってナニ?」という人が多く、これも事実。そこでヤマハでは、いまそうした人びとを対象に、モータースポーツのある生活、新しいレーシングライフを提案するDMキャンペーンを展開しています。

カッコよく、しかも快い緊張感につつまれたモータースポーツの世界を最も手軽に、安全に実現できるレーシングカート。そんなカートの世界をわかりやすく解説したパンフレットと専用封筒も用意しました。お店でもぜひ、このキャンペーンを新しいお客さまの誘店にご活用ください。

▼レーシングライフDMパンフ・No.161927

▼レーシングライフDM封筒・No.161928

見るだけでレーシングカートのすべてがわかる。カート入門ビデオ。お客さまに初歩から説明しな



千変万化の峠道で

さわやかな走りを楽しむ

あずみ野ライダーズクラブ

●モトプラザ・イワサキ岩崎澄雄社長（長野県南安曇郡豊科町大字豊科4898）



アルプスの山やまから吹くさわやかな風を体いっぱいを受けてワインディング・ロードの走りを存分にエンジョイしている、とつてもうらやましいバイク仲間たち、それが「あずみ野ライダーズクラブ」のみなさんです。

●メンバーは、自覚も、責任もある社会人だけ

四方をアルプスの山なみに囲まれた長野県の安曇野、ここはオンロード、オフロードを問わずツーリングには最高のルートが至るところに点在する、まさにライダーのユートピアです。

こんなうらやましい環境の中で、思う存分ツーリングを楽しんでいるのが「あずみ野ライダーズクラブ」のみなさん。今年35周年を迎える「モトプラザ・イワサキ」さんをベースとして、15年前から活動をつづけています。当時はツーリングばかりでなくモトクロスやミニバイクなどのレース活動も行なっていました。いまはツーリング一筋。当時の15名のメンバーの中から、15年たつたいまもクラブのリーダーとして参加している人が5名もいる、というところが「あずみ野ライダーズクラブ」の人間的なつながりのつよさを物語っているようです。

メンバーは、現在32名、19才のヤングから40才のアダルトまでが一緒になって楽しんでいます。そして、このメンバー全員が社会人というのも、このクラブの特徴。「ひとりひとりが自覚を持って、責任ある行

動がとれる、それが社会人でしょう。うちはそんな人たちだけで楽しむようにしている、だから15年間、クラブのツーリングでは1度だって事故なんかない。この間も学生さんが入りたいってやってきたんですけど、卒業するまで待ってもらうことにしました」とクラブ員の良き相談役・岩崎社長は笑います。

●もっか一番人気は野麦峠越え

毎月1回のミーティングに、雪解けの4月からオフシーズンに入る11月まで月に1度の月例ツーリング、シーズン直前とオフ直前の2回のスクーターツーリング、さらに秋の温泉1泊ツーリング……といったところが「あずみ野ライダーズ」の主な年間行事。「シーズンに入る直前にスクーターツーリングをするのは、いわばウォーミング・アップ。今年も4月に信州・上田まで往復150キロを走ってきました」

毎月の月例ツーリングは、200〜300キロの日帰りコースで行なわれますが「土地柄、ツーリングコースがいっぱいあって、どこに行こうか迷っちゃう」というせいたくなく悩みを持ちながら、信州のワインディングロードの走りを存分に楽しんでいます。そして、もっかメンバーに人気一番のコースは、信州・松本から飛騨・高山へ抜ける途中の野麦峠越え。

「野麦峠には老夫婦がやってる小さな茶屋があるんです。流しそうめんのとてもおいしいね。家族的な雰囲気クラブ員の人気を呼んでいるんでしょう。走りより茶屋に行くのが楽しいメンバーもいるようですよ」



Y.E.S.S. HOT-LINE

Y.E.S.S.ショップで★Y.E.S.S. 情報★のコミュニケーションスペース Y.E.S.S.ホットライン

真夏の祭典

'86 Y.E.S.S. サマーフェスティバル

今年も全国8ブロックで開催



北海道 8月2～3日 / ルスツ高原ホテル特設会場

内容：前夜祭 レース (MX、MBX、カート、スクーター) その他

東北 7月26～27日 ■サマーフェスティバル in 田沢湖 / 田沢湖ミナミユースランドホテル

内容：ツーリング (オン、オフ)、トライアル教室、その他

8月2～3日 ■レーシングフェスティバル / スポーツランドSUGO

内容：レース (RR、MX、TR、カート、ミニロード、スクーター) その他

8月23～24日 ■サマーフェスティバル in 裏磐梯 / 裏磐梯

内容：前夜祭、ツーリング (オン、オフ) オンオフ・ワンポイントレッスン、その他

関東・中部 8月3日 / 富士スピードウェイ

内容：サーキット走行、レース (MX、TR、カート、ミニバイク他) その他

中部 7月20日 / 三重・ヤマハスポーツランド第一

内容：レース (MX、TR、ミニバイク) その他

関西 8月2～3日 / 兵庫・グリーンピア三木

内容：前夜祭、レース (YSRワンメイク、スクーター、TR) 林道ツーリング、その他

中国 8月2～3日 / 鳥取・大山鏡ヶ成国民休暇村

内容：前夜祭、その他

四国 8月2～3日 / 愛媛・久万高原ふるさと村

内容：前夜祭、ジムカーナ、その他

九州 8月2～3日 / 熊本・スコール菊池高原

内容：ファイアーストーム、オークション、トライアル教室、その他



●「お店にはスタッフ・ユニットも開設予定」

1回のツーリングに参加するのは平均15名。2班に分かれて走ります。ところが、最近になって少し様子が変わってきたのは、元米オンロード派ばかりだったこのクラブなのに、今年に入って3分の1のメンバーが、セカンドバイクとしてオフロード車に乗り始めたこと。中にはXT250Tでタイヤをオンロード兼用にはきかえ、スーパーバイカーズの走りを楽しむ人も現われています。



「クラブ員やY.E.S.S.スタッフにもっと遊びを」とはりきる岩崎社長にとって、奥さま陽子さんは最高のパートナー

「また揃いのユニフォームをつくり、他のクラブとの交流を深めたい。さらに、Y.E.S.S. スタッフ・ビット」を店の一角に設けて、クラブ員やY.E.S.S.スタッフが、自由に自分のバイクをメンテナンスできるようにしてあげたい。専用工具を揃えたりしてね。洗車機なども用意してあげたい。」

と岩崎社長は、クラブ員のための新しい企画に胸ふくらませています。



地域の人びとに親しまれる 全機種、全色そろったヤマハスクーター専門店

YOU・SHOP サイクルショップやぎさわ 八木澤稔社長
横浜市南区六ツ川4-1-7 045(066)8687

スポーツバイク以上に、お店への固定化がむずかしいといわれるスクーターユーザーをしっかりと定着させている『サイクルショップやぎさわ』さん。そのヒミツは、明るく、親しみやすい店舗と充実したアフターサービス、そして何よりもヤマハスクーター専門店・YOU・SHOPとしての信頼感です。

●YOU・SHOPで新スタート

その数1万世帯にのぼるといふ横浜市南区の住宅街、そこを貫いて横浜港と国道1号線をつなぐバイパスが走っています。コンテナを積んだ巨大なトレーラーがひんばんに行きかうこのバイパスに面して、ま新しいヤマハ・YOU・SHOPの外装がまっ先に目にとび込んでくるお店、それが『サイクルショップやぎさわ』さんです。

創業8年、昨年の秋には90平方メートルの立派なショールームを持つ新店舗に改装。同時にヤマハ・YOU・SHOPとしてご商売の新たなスタートを切られたのです。

●よいモノをじっくり選ぶ、スクーターユーザー

お店を中心に半径2キロを商圈として、10代のヤングから40代のアダルトまで、幅広いお客さまを対象に、地域にしっかりと密着したご商売を展開する八木澤社長に、まずは最近のスクーターユーザーを分析していただきました。

「年齢層が広く、男女の構成比も約半々というのがうちのお客さんなんですが、やはり年代によってスクーターの買い方というのは、はっきりと違ってきますね。」

10代から20代前半のヤングは、仲間の間で話



スクーターユーザー2000人のデータが入ったVOCXでDM 発送先を抽出する八木澤社長

題になっていく人気スクーターに集中する。だから価格も気にしないし、店員の勧めなどにもほとんど無関係ですね。

ところが30代になると、所帯を構え、子供もできたばかりということでスクーターの購入予算もグッと制限されるのでしよう、そこで値段を第一にしたより実質的な車種選択になってくる。

しかし、それが40代になると再び生活全体のペースが安定してくるんですね。それまでより1ランク上の車種でも、きちんとお勧めすれば購入するという具合です。

でもどの世代にも共通していえることは、

かつてのような衝動的な購入は全く姿を消し、本当にスクーターが欲しい、必要だという人が、じっくりとそのスクーターの商品性を見きわめて購入しているということです。

ヤングは友だち同士の会話や雑誌から、アダルトやご婦人はご自分のお子さんから、またヤング女性はお兄さんや弟、ボーイフレンドから、といういろいろ情報を集めて、店に来る前に十分に商品知識を仕入れていきますね」

●ヤマハスクーター専門店”の打出しでスクーターユーザーを固定化

『ブルーのミントをください』といった車種はもちろん、カラーまで決定して来店するお客さま。「こんなお客さまに應えるためにヤマハ・YOU・SHOP」としてスタートしたんです」と八木澤社長は語ります。

「最近のように成熟した市場では、100台売れるとしたらそのうちの何台を自分の店で売ることができるか、これが商売のポイントですよ。」

そのためには、専門店イメージの打出しと、スクーター全機種、全色の展示は欠かせないと、いち早くYOU・SHOP”になったんです。

案の定お客さまは

「専門店」というイメージにとっても敏感。そのうえ、スクーターユーザーは、スポーツバイクユーザーとちがって店に対する帰属意識みたいなものがないので、品揃えの豊富な店、雰囲気の良い店があるなあと思うとすぐそちらに移ってしまっただけなんです。そんなお客さまを定着させるためにも、ヤマハスクーター専門店・YOU・SHOP”の打出しは成功でした。

店頭のアパレルスペースを最大限にとっていつでも展示会や店頭でのイベントができるようにしたのも、よかったですね」

●折込みチラシは、地域の人びととの大切なパイプ

実際に取材中にも、お店の前を通りかかったハイソカールの助手席から、ギャルが身を乗り出して「あっ、ピンクのミント。私アレ買っただよ」と運転席のヤングに話しかけるシーンもあったほどですが、これなども八木澤社長の狙いの正しさを立証するヒトこまといえそうです。

こうして現在『サイクルショップやぎさわ』さんの店頭には、品揃えの豊富なヤマハスクーター専門店というお店のイメージに引かれて、またお客さま管理システム・VOCXにもとづくDMや新聞折込みチラシを目にして、1日平均30人のお客さまが来店されます。

「よく『折込みチラシはもう効かない』なんて話を聞きますけれども、やはり地道な積み重ねが大切なんです。うちでは1昨年、1年間チラシの折込みを中止したんですけど、やはり来店者は減っていますよ、確実に。い

お店前のバイパスを走るクルマからも、YOU・SHOPの外装がひと目でわかる『サイクルショップやぎさわ』さん



ミントの車体色に合わせて、カラフルな花をあしらったミントコーナーをはじめ、明るい店内は女性やヤングそしてアダルトにも好評



地域の人びとに、いつも楽しい話題を提供して好評の『サイクルショップやぎさわ』さんのオリジナル・チラシ



電話の横にはいつも「出張サービス受付帳」が



商談コーナーも入口すぐ脇



手づくりプライスカードで、YOU・SHOPらしいやさしさを



お店のスタッフは八木澤社長(右)奥さま君子さんに八木澤正俊さんの3人



「いつでも店頭でイベントが開けるように」とたっぷりとした店頭スペース

「お客さまを待たせず、どんな修理にも応じられる、これがうちのアフターサービスの基本です。そのためにスベアパーツをしっかりとストックしたり、電話による出張サービスの依頼も誰が受けても確実にこなせるように『出張サービス受付帳』を電話の横に備えたりしています」

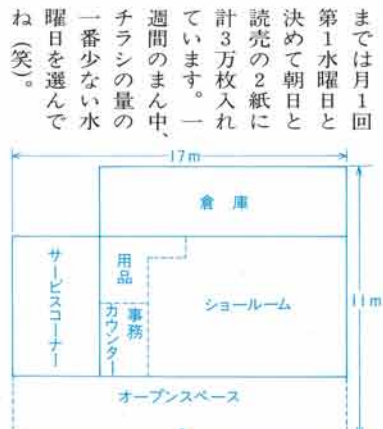
「いいながら八木澤社長は、親しまれるお店づくり」に精力的に取り組まれています。きっと、この夏にはさわやかな浜辺の演出が、地域の人びとの話題を呼んでいることでしょう。

「お客さまを待たせず、どんな修理にも応じられる、これがうちのアフターサービスの基本です。そのためにスベアパーツをしっかりとストックしたり、電話による出張サービスの依頼も誰が受けても確実にこなせるように『出張サービス受付帳』を電話の横に備えたりしています」

「いいながら八木澤社長は、親しまれるお店づくり」に精力的に取り組まれています。きっと、この夏にはさわやかな浜辺の演出が、地域の人びとの話題を呼んでいることでしょう。

「お客さまを待たせず、どんな修理にも応じられる、これがうちのアフターサービスの基本です。そのためにスベアパーツをしっかりとストックしたり、電話による出張サービスの依頼も誰が受けても確実にこなせるように『出張サービス受付帳』を電話の横に備えたりしています」

「いいながら八木澤社長は、親しまれるお店づくり」に精力的に取り組まれています。きっと、この夏にはさわやかな浜辺の演出が、地域の人びとの話題を呼んでいることでしょう。



アダルトな感覚をさらに グレードアップ

EXCEL

ボルトオン アクセサリーズ

オトナの走りを極めたスクーター『エクセル』の新登場に合わせて、『エクセル』のボルトオン・アクセサリーズを新発売します。

アダルトな『エクセル』。スポーティな走りを際立たせる素敵なアクセサリーグッズ達。スタイリッシュで実用性を備えたこれらのアイテムを、ぜひ『エクセル』のお客さまにおすすめして、スポーツライクなスクーターライフをご提唱ください。



お気づきですか?!
フエルトankの包装が
新しくなっています。

『ヤマハSTパック』5月より導入!

ヤマハでは、5月からフエルトankの包装に新システムを導入し、従来よりさらに効率よく、しかも包装効果を高めています。

この新システムは、ヤマハが開発した『ヤマハSTパック』と呼ばれる特殊フィルムによるシュリンク（収縮）包装加工のこと。ダンボールで作られた台座の上のせたフエルトankにSTパックをかぶせ、熱を加えてSTパックを収縮させフエルトankを包装するとともに台座に固定するという方法です。



ウインドシールド

スポーツ感覚いっぱいのワイドでクリアーなウインドシールド。梅雨の季節に、ぜひ装備したいアイテムのひとつです。

■ No. 90793-53002

標準小売価格：¥5,200



リアボックス

エクセルのスタイリングをそこなわずに、より大きなラゲジスペースをプラス。アダルトなお客さまや業務用にお使いのお客さまの必需品です。

■ アップルレッド / No. 14T-W0754-00-LG

■ シルキーホワイト / No. 14T-W0754-00-GE

■ ウェットペールブラウン / No. 14T-W0754-00-RU

■ グリニッシュブラック / No. 14T-W0754-00-RL

標準小売価格：¥9,350



リアマッドガード

ドロハネを防ぐリアマッドガード。梅雨どきはとくに効果を発揮します。

■ No. 1YT-W0708-00

標準小売価格：¥720



サイドスタンド

乗車率の高いお客さまに、おすすめしたいサイドスタンド。業務用にお使いいただく場合は、欠かさずご案内ください。

■ No. 35R-W0733-00

標準小売価格：¥1,550



●うちの用品コーナー

お客さまの関心を惹きつける "遊びどころ"あふれるディスプレイ

ウインドショッピングをしている時に、見ていてウキウキ・ワクワクしてくる楽しいディスプレイに出会った経験って誰でも1度や2度は持っていることでしょう。

そう、まさにそんな"遊びどころ"あふれるディスプレイを実際に展開されているのが、ここにご紹介する名古屋市の(株)柴田モーターズ(柴田芳孝社長)さんです。

写真は、昨年4月にオープンした(株)柴田モーターズさんの3店舗目にあたる瑞穂店の一角。用品展示はすべて奥さま昭子専務のご担当とのことでしたが、ヤングの心を見事にとらえたディスプレイの数かすに、ただただ脱帽させられるばかりでした。



▲店頭に飾られたヤマハラライディングウェアを着たマネキンとケミカル用品。ハードな印象のバイクコーナーの中であって、親しみやすい雰囲気をかもし出しています

▶2階の用品コーナーの入口正面に飾られたジャケットとバッグ類。天井から吊るされたジャケットがうまく上部空間を埋めて、お客さまの目をバッグ類へと導いています



用品コーナーの中央にデント置いたデスクの上には、ベタ置きでトータルコーディネートアピール。椅子に座った2体のマネキンもお客さまの目を惹くのに十分



これによりフェルタンクは梱包ダンボール箱の中で動くこともなく、また外からの衝撃に対してもSTバックが保護するため、運搬上のトラブルを解消。さらにSTバックは半透明フィルムのため、包装をとかすにフェルタンクのカラーリングやグラフィックが確認できるという利点も持っています。なお、STバック包装のフェルタンクをお取扱いの場合は、以下の点に十分にご注意ください。

①STバックは熱処理されているため、包装をといった後に再包装することはできません。

②STバックはフェルタンクに密着しているため、包装をとかれる場合はフェルタンクに傷をつけぬようお気をつけてください。



ファッションバスケット

おしゃれセンスと実用性をかねそなえたフロントバスケットは、アダルトユーザーの必需品です。

- ホワイト/No. 1 YU-W 0722-50
- ブラック/No. 1 YU-W 0722-60

(その他のカラーも取揃えてあります)

標準小売価格：¥3,300 (ステーセット含む料金)
※上記価格には別売のステーセットが含まれます。

ご注文の際はファッションバスケットとステーセット両方の部品番号をご指示ください。

◎ステーセット/No. 1 YU-W 0728-00



フロントスポーツバスケット

スポーツライクな楽しみを好むヤングユーザーには、カジュアル感覚のスポーツバスケットも用意しました。

- ホワイト/No. 27V-W 0722-50
- ブラック/No. 27V-W 0722-60

標準小売価格：¥1,900



